

レナウン商事株式会社

★色／タッチ

デザインが自慢です……

レナウン スポーツシャツ

深まりゆく秋とともにスポーツシーズンが訪れます。レナウンのスポーツシャツで若さを謳歌しましょう。秋は貴方の個性と魅力をひき出すレナウンスポーツシャツのシーズンなのです

緊急特報

遺憾な約束破棄

——東京オリンピック除外で国際ハンドボール協会公式声明——

さきのアテネでの国際オリンピック委員会で、ハンドボールは最終的に一九六四年東京オリンピックからしりぞけられた。この事実は単にスポーツとしての見地から残念であるばかりでなく、日本の組織委員会側の約束破棄の結果であることを考えると、なお一層残念である。日本組織委員会がミュンヘンのIOC総会でオリンピック開催地決定の時にした約束——オリンピックの全種目を実施する、即ちハンドボールも行なうという約束を守らなかったのは大いに失望した。この理解できぬ態度の急変で、FIH（国際ハンドボール協会）代表に対しアテネで行われた説明は——財政上の理由での説明であつたが——なんら意味のあるものではない。その説明は窮状をのがれるための口実にしかすぎない。

一九六〇年のリエージュでの総会のときには、われわれは次のオリンピック大会にハンドボールが行なわれるだろうという希望を持っていた。この希望は、ハンドボールが一〇〇％アマチュアの優れたチームゲームとしてようやく広く認識されてきたという事実よりも——一九三六年以来ハンドボールはオリンピックに参加する機会を持たなかったが——むしろ組織委員会がオリンピック憲章二二種目を実施するといった約束に根拠をもっていた。アテネでは突然それは一八種目の問題でしかなかった。そしてIOCは日本に二〇種目を行なわせるよう義務づけた。そこにわれわれの驚きがあり、またこのような約束違反は非常に不快な印象を残した。

というのは、もし組織委員会が憲章二二種目を提案していたならば、IOCは何の反対もなしにハンドボールを認めたに間違いないからである。日本が一八種目の提案を主張したので、IOCは二二種目を課することができず、二〇種目の妥協案の投票によってハンドボールを含む二種目がしりぞけられた。いままでのオリンピック大会でずっと行なわれてきたカヌーと近代五種は、日本側の近代五種をさく除しだい希望にかかわらず、採用されるチャンスを多く持っていた。

われわれの非難はIOCに向けたものではない。反対にアベリー・ブランデージ会長はわれわれに非常に好意的であった。同様にわれわれの非難はなおさら日本ハンドボール協会にあてるものでもない。日本ハンドボール協会はFIH加盟の他の各国協会とともに達成しようとする目的のため全力で努力した。日本の組織委員会こそハンドボールという機構に対し犯した過失の責めを負わねばならない。

しかしながらアテネでの最終的投票の時われわれには四票が不足であったというならば、それはヨーロッパ大陸以外の大部分の国におけるハンドボールに対する関心の少さから由来している。したがってそのことを認識しなければならない。そしてヨーロッパ以外の大陸の数多くの新しい国でポピュラーになるよう努力することがわれわれの責務である。この方法が将来ハンドボールが仲間はずれにとり残されない大きな基盤となる。われわれがつくさねばならぬ努力がたとえ長期にわたるものであれ、それだけ苦労に値するものである。何カ国かの協会はすでにこの分野で相当活躍しており、それら協会はわれわれの感謝をうけるに値する。しかしその他の協会もこれに従がって行くべきである。

アテネの決定から引き出せる教訓はスポーツの分野においても軽々しく人を信用するということは通用しないということである。というのはそうすることによりひどい的はづれがありうるからである。そして一様にいえることはその決定は落胆の原因となるべきものでなく、反対に一九六八年のオリンピックにハンドボールが採用されるようにするためできるだけの努力をするための刺戟となるべきものである。

その努力の成果はひとえにIOCと組織委の態度にかかっているものであるがわれわれの活動に大きく影響されるところでもある。一一人制であれ七人制であれハンドボールを発展させるために全力をあげてつくさねばならない。

（国際ハンドボール協会広報第二十九号一九六一年七月より、仏語訳は渉外理事　境井）

「ハンドボール」第七号目次

五輪種目除外で声明発表

＝組織委へ強硬な追求＝

火をつけた〝出なかった制限案〟

日本ハンドボール協会は七月十二日夜、ハンドボールがオリンピック東京大会の種目からはずされた経緯が不明確であるとして、オリンピック東京大会組織委員会、日本オリンピック委員会（JOC）に対して声明書と公開質問状を出した。

「われわれはオリンピック種目からはずされても東京大会には協力するつもりで、ヨーロッパ各国の不満を押えてきた。しかしその結果はわれわれを裏切ることばかりだった……」報道関係者に囲まれた高嶋洌理事長の語気は鋭かった——。

各国連盟から相次ぐ抗議

「ともかく、正直者がバカをみる結果になったのですよ」と高嶋理事長はいう。

昨年末、日本のオリンピック委員会（JOC）と東京大会組織委員会は、東京大会の開催種目を18にする「日本案」をつくった。

そして、さく減された種目のなかに不幸にもハンドボールの名が見えた。近年発展の一途にあり、しかも世界最強といわれるルーマニアとの国際試合で好勝負を演じて自信を高めた日本のハンドボール界にとって、この決定はショックだった。

そして、そのショックは、やがて大きな不満に変った。

この変化は、ひとり日本のみならず、一九三六年のベルリン大会いらい二十八年ぶりに聖火のもとで、ハンドボールが行なわれるという希望と期待を抱いていた世界のハンドボール界も同じであった。

ハンドボールさく減への抗議が当然のように、ヨーロッパ各国のハンドボール連盟から、日本のハンドボール協会に送られてきた。

しかし、高嶋理事長（注、高嶋氏はJOC委員）をはじめ、日本ハンドボール協会は「決定した以上、それにしたがう」という態度を崩さず、また各国の復活要求も、JOCの「東京大会の成功のためにも18種目の線は守らなければならないし、国際的な裏面工作はやらないで欲しい」という意向にしたがって押え続けてきた。

三月の世界室内選手権でヨーロッパに遠征した際も行く先々で、復活要求の声が上がったが、「JOCの決定だから」ということで高嶋氏は、その〝声〟のなだめ役に回わっていた。

そして、各国も不満足ながら、これを認めた形となり、それなら「一九六八年の大会での実現を期そう」ということになりかけていた。

しかし事態は、六月アテネで開かれた国際オリンピック委員会（IOC）総会の決定で、再びハンドボール関係者の神経をとがらせる結果となった。

この総会で、種目数問題は一度も議題に上がらぬばかりか「日本案（18種目案）」は通らず、日本がさく減した種目のなかから近代五種競技とカヌーの復活採用が決まったのである。（別掲参照）

「日本案は絶対通る」といい切った組織委員会の面目は、無惨にもはねのけられた。

しかし、ともかくIOCの決定である。これにしたがうより他はなかった。

だが、ハンドボール関係者には「オヤ？」という疑問がこのとき、生まれたのである。

つまり、あれほど18種目に固執した日本

第58回IOC総会　投票で除外決定

第58回IOC総会は六月十五日から、ギリシヤのアテネで開かれ、二十一日、一九六四年東京で開く大会の開催種目の討議が行なわれ約四十分の討論の後、ブランデージIOC会長が「投票即決」の断を下し、オリンピック憲章で定められた22種目について投票を行った。

投票は会長、役員を除いて行われ投票総数は43票。東京大会からはずす種目にマークさせたもので、ノーマークだったもの、つまり満票の支持を受けたのは陸上、水上、ボート、レスリング、ウェイトリフティング、体操の6種目で、ハンドボールは洋弓と共に28のマークがつけられ、過半数のためこの2種目の除外が決まった。なお18種目縮少案のため犠牲になっていたカヌーはマーク12、近代五種はマーク15で共に復活、20種目の実施が決められ日本側の用意した18種目案（ハンドボール、近代五種、洋弓、カヌーさく除）は、通過することが出来なかった。（この項数字は共同）

が、いかにＩＯＣの決定とはいえ、簡単に20種目を承諾したことは、あるいは22種目案を出したら、その承認も可能性があったのではないかということである。
言いかえれば、「ハンドボール」も復活出来たかもしれない」ということだ。
「そんなことはない」と、もしそのとき言下に、その可能性を否定できるとしたらそれは高嶋理事長以外にいなかったろう。
それほど、高嶋氏はＪＯＣの決定を信じ、ＪＯＣ委員の態度に全面の信頼をおいていたのである。

復活の可能性もあった？

しかし、時がたつにつれ、「ハンドボールも復活できたかもしれない」という可能性が色濃いものに感じられてきた。

そして六月二十九日、ＩＯＣ総会に出席した東委員らの帰国談は、ハンドボール界をさらに刺激させるモノだったのである。

七月十二日の声明書、公開質問状問題はこのときの委員の帰国談が導火線となったのである。各紙に出た委員の帰国談はざっと次のようなものだった。

東竜太郎委員は『昨年ローマの理事会は、種目を18にしぼろうと決めたが、ここ一年間にＩＯＣ自体が大きく変ったようだ。しかし、オリンピックの規模を縮少すべきだという考え方に変わりはない。こんどの総会では18種目に制限することにこだわらず、やめたい種目を表決する方式を採りハンドボールと弓が落ちたわけだ。』（以上朝日、中日、報知）。また、昨年の理事会で決めた種目制限案がこんどの総会で一度も議題にのぼらなかったのはなぜかという疑問に対して東委員は「ＩＦ（国際競技連盟）の発言力が大きくなったことや、オリンピックはできるだけ大きくやろうという東欧関係の意見などあって、ここでそれを持ち出しても通らないとブランデージ会長が判断したためだ」と語っている。

そして、ハンドボール関係者の最大の関心点であるハンドボール復活の可能性があったか、否か。ハンドボール等も入れてははじめから22種目全部をやるという提案もできたのではないかという質問に対して、同行した田畑政治組織委員長は「強引に押せばもち論できたかもしれない。しかし、ハンドボールの支持者は一人もいなかった」（報知）と答えている。

高嶋氏は、この談話を聞いたときは発言を特に公けにしなかった。七月十二日午後四時半から東京一ツ橋の学士会館で開かれた日本オリンピック委員会総会・体協評議員会合同会議の席上で東委員らからＩＯＣアテネ総会の報告が行われたあと、高嶋氏はこの決定は不明朗であり、報告に承服できないと、硬化した態度に出た。

高嶋氏は席上で「ＩＯＣ総会で決まったことをいまさら大会実施種目に復活を望むのは不可能と思うが、日本の組織委員会がＩＯＣの意向にしたがって18種目に制限しておきながら、今回（注、アテネ）の総会では制限案が議題にのぼらず、投票により20種目に増えた。日本の組織委員会が18種目制限案にこだわってハンドボールなどが詰腹を切らされるハメになった」と追及、さらに不満の具体的理由として「ＩＯＣの

声明書と公開質問状（要旨）

７月12日夜の日本ハンドボール協会緊急常務理事会で決議された、オリンピック東京大会組織委員会あてに提出の声明書と公開質問状（要旨）は次の通り

声明書（要旨）

アテネで行われた第58回ＩＯＣ総会で日本のＩＯＣ委員とオリンピック東京大会組織委員会のとった態度及び行為は国民の信頼と期待を完全に裏切っている。

また、オリンピック東京大会の会期、選手村、競技種目など組織委員会は自主性をもって解決したものは何一つない。

このような状態では東京オリンピックを迎えても成果はとうてい期待出来ない。

ここに心ある国民大衆と全国15万のハンドボールプレイヤーの名において日本ＩＯＣ委員と、オリンピック東京大会組織委員会の反省をうながすと共に、責任者の即時退陣を要求するものである。

公開質問状（要旨）

次の項目について回答を要求する。

1. 昭和35年11月28日の組織委員会総会で「オリンピック東京大会の実施種目は18種目に決定することに間違いない」と高石、東両ＩＯＣ委員は断言したが、それはいかなる根拠に基いてなされたか。
1. 「オリンピック東京大会の種目のことで日本提案がＩＯＣで承認されない場合は組織委員会が責任をとる」と公言され、また一部の委員の中には「日本案が通らない時は腹を切る」とさえ広言されたが、日本案が通らず20種目となった現在、いついかなる方法でこれを実行されるのか。
1. 日本案の18種目案がアテネのＩＯＣ総会で、近代五種とカヌーを加え20種目に変更された。これは種目制限の基本線が根本から崩れたことである。東、高石両ＩＯＣ委員は、アテネ総会の席上、このようなイキサツからみて、全種目（22種目）実施を主張すべきではなかったか。特にハンドボールは普及度が高く、日本の技術水準も高い、しかも実施にともなう費用も小額であるにも拘らず、これを削除したのはいかなる理由からか。
1. オリンピック東京大会のデモンストレーション種目は実施種目決定後審議すべきで現在決まっている種目（本誌注・野球と日本武道）は全種目をやる前提の下に決まったものであり20種目に減った今日、デモンストレーション種目は改めて再検討すべきではないか。

方針として18種目にさく減することになった議事録を見せて欲しいと要求したが一度も見せてもらえなかった」「種目さく減は重要な問題であるにもかかわらず当該競技団体に諮問されたことがない」「18種目がIOCの根本方針であるとこれまでいいながら、いまになって東IOC委員はJOC自体は18種目に制限したことはないと報告したのは不可解である」といった旨の発言を行なった。

　これについて津島寿一組織委員会々長は「18種目案はIOC理事会の決定事項であったし、予算の関係から組織委員会として開催種目を早急に決定する必要があった。しかし、こうした結果になったことについてはおわびするし今後のことにつき話し合いをしたい」（毎日）と説明した。

組織委責任者の退陣を要求

　結局、この会議では高嶋発言が行なわれただけでこの問題に関してはそのままで終った。このあと日本ハンドボール協会は東京お茶の水の岸体育館（体協）で緊急常務理事会を開いて、高嶋理事長からこれまでの経過の説明、報告があったのち「IOC委員とオリンピック東京大会組織委員会の責任者の即時退陣とハンドボールを除外した理由など四項目を公開質問して回答を要求すること」に決め、同時に声明書をも発表、十二日夜津島組織委員会々長、十三日朝、田畑組織委員会事務総長に公開質問状と声明書（何れも別掲）を手渡した。

　この日本ハンドボール協会の要求に対して、津島会長は「はじめから喧嘩ごしで退陣せよといわれても困る。正式種目として実施することは国際的な問題なのでいまさらできない。ハンドボールの救済については善後策をねりたい」と語り、田畑事務総長は「ハンドボールの除外は気の毒に思ってはいるが、IOCでは支持も少なく、とても東京大会の種目に加えられる空気ではなかった」（読売）と話した。

　この日本ハンドボール協会のノロシは、一部では「頼りない組織委員会に正論をぶつけた」と支持され、他の一部では「決定したあとだけにおとな気ない」との声が聞かれた。

　しかし、発端は総会から帰国した東、田畑両氏が羽田の記者会見でこちらが強く出ればハンドボールと弓も加わって22種目になったかもしれないと発言をしたときに始まったのであり、この発言は確かにハンドボール界の怒りを買うモノである。こうまでハンドボール協会が硬化するのも無理のない話であった。

　大体が18種目に制限されるというローマでのIOC総会の意向とやらも、その総会に出席した東委員が帰国後、一カ月近くたって突然いい出したことなのだ。高嶋氏は十二日夜は興奮して「ペテンにかかったようだ」とか「サギにかけられたようなものだ」といった言葉がその口をついて飛び出したが、たしかにこの種目問題は納得のいかない点がある。

　その意味で、日本ハンドボール協会の今回の行動は、事態を明確にするためにも無理のないことである。種目さく減問題が起きていらい、新聞、放送などで伝えられる情報に一喜一憂して、しかも最後はキツネにつままれたような状態におかれた国内ハンドボール界に対しても協会の今回の挙は、当を得た態度ということができよう。

（蛸谷）

組織委に誠意なし
高嶋理事長の話

　七月十二日夜、日本ハンドボール協会常務理事会を終えたあと、高嶋冽理事長は次のように語った。

※

　われわれは、日本案（18種目）が決まったときからそれにしたがおうとしてきた。それはわれわれが東京大会を成功させたいという気持ちからだ。

　われわれの考えとは逆にヨーロッパを中心にした世界十数ヶ国からは激しい抗議がきたが、しかしわれわれは、あくまで日本案を絶対のモノと想っていたし、また、変な動き（注・復活のための国際的裏面工作などを指す）をしないでくれという組織委員会の要望もあり、それらの抗議をおさえてきた。

　今春のヨーロッパ遠征のときも、外国の関係者のおこっているのをなだめるのに努力してきたぐらいだ。

　この間の、日本ハンドボール協会の苦労も察していただきたい。

　だが、そうした我々の努力も、あくまで18種目制限という原則にしたがったからであり、18種目制限という原則が崩れているのなら話は別だ。

　東IOC委員らは、情勢が変ったからだといっているが、われわれにしてみれば〃だまされた〃という気持ち以外にない。

　アテネの総会でハンドボールの支持が少なかったといっているが、これはわれわれが外国からの復活運動などを前述のような理由でおさえていたからで、もし、復活運動をやっていたら、決してそんなことはなかったハズだ。

　復活運動や抗議活動は、今春ドイツで開かれた世界選手権に各国のハンドボール首脳者が集ったときにもできたのだし、機会はいくらでもあった。

　外国のそうした動きをおさえてくれといってきたIOC委や組織委員会が『IOC総会では支持も少く、東京大会の種目に加えられる空気ではなかった』などと発言しているのは、全く不誠意極わまるものである。

　国内十五万人のプレイヤーの気持ちをどうしてくれるんだといいたいし、各国のハンドボール連盟や選手にどう言い訳けしてよいか判らない。

　いまさら、正式種目に加えてくれとはいわないが、決まったからしようがない式のやり方は納得出来ないし、大体誠意が感じられないのは遺憾である。

　またデモンストレーションに弓が「日本武道」として入ることになれば、オリンピック種目ではハンドボールだけがのけものということだ。

　国内で、発展の一途にあり、しかも、そのレベルも国際的に見て、トップ・ゾーンに近いハンドボールが、ここで、そうした待遇をされては支障をきたす。

　この点についても、組織委員会に抗議をする理由と善処方を要望する理由は充分である。

※

　また、津島寿一組織委員会々長は次のように語った。（共同）

　「18種目に制限したのは、実行委員会の決定事項だった。日本側はこの線にそって予算措置をとらねばならなかった。

　結果的には、見通しが甘かった点も多いのでそれについては大いに反省している。

　ハンドボールについては、救済対策も考えてなんとか了解してもらうより仕方がない。」

解説てい談

筋のとおる声明発表

だが事態の転換はあり得ない

X　ハンドボール協会のJOCへの声明書問題だが、一般の関心というか、反響はどうなんだろう。

Z　少くとも、報道関係者は一様に〃JOCはハンドボール協会の言い分をエリを正して聞け〃といっている。

X　たしかにJOCには、種目数問題に関してアイマイなことが多く、ハンドボール協会があいう挙に出るのも当然だね。

Y　ハンドボール協会としてもあの声明書を出したところで、いまさら東京大会の種目として復活されるとは思っていないだろうし、といって、釈然としないままに葬られるのは…ということで出したんだろうが。ともかく、種目問題を始め、いささか頼りないことが続きすぎるJOCには、痛い一撃だったろう。

X　高嶋理事長の一番いいたいのは「JOCが22種目開催を強調すれば、IOCで承認されただろう」という点なんだ。そしてその努力がなかったばかりか、IOCの支配的意見として種目さく減案があるのだから、ハンドボールは退いてくれといわれ、その言葉に従った。しかも、国際的な裏面工作はするなというのでしなかった…。

Z　そうしたばっかりに、IOC総会でハンドボールが落とされたというのだろう。

Y　高嶋理事長が「だまされた」というのはそれなんだ。

Z　高嶋氏にしてみれば、今春の遠征でヨーロッパ各国の関係者の復活運動を、JOCの希望もあり、押えてきただけに、高嶋氏自身の国際的な信用問題もあると思う。

Y　国内的にも、同じことがいえるだろう。

X　ただハンドボールは今春の遠征のときJOCあるいは体協からオリンピック種目からはずされたということで、特例の遠征補助を受けているでしょう。

JOCにしてみれば、あれが一種の手切れ金といってはなんだが…。

Y　慰謝料か（笑）

X　そういうフクミはあったと思う。

Y　しかしネ、ハンドボールのような国内でようやくその根が地につき、これからというスポーツには、オリンピック種目から落ちたことは大打撃だからネ。

Z　だから、ハンドボール協会が国内のプレイヤーに納得させるためにも、あの声明書を出した、というのも一つの見方だろうし理由だろうと思う。

X　サトウ・ハチロー氏が東京中日新聞に、それを皮肉って「ハンドボール協会の連中は、なにかいわなければ下の人たちにぐあいがわるいので、あんなことをやったんだろう」と書いているが、そうまでとっちゃあ、今度のケースはハンドボール協会には気の毒だ。

Y　世間的にもやや不信を買いかけていたJOCに一石を投じたという意義はあったと思うし、大人げないとはいえないと思う。

X　川本信正氏（スポーツ評論家）は「ハンドボール協会の声明書があげた四つの理由は一々条理にかなっているし、大いに拍手を送る」というようなことを書いていたネ。

Y　ところでデモンストレーションにハンドボールを加えたらという問題だが…。

Z　ハンドボール協会の言い分は、いま決まっている剣道と野球は、22種目全部をやるという前提で決められたのだから、20種目に変わった現在、再検討すべきだという。

X　これもたしかに一理はある。だが、すぐ野球に代ってハンドボールがというものでもない。そうなればハンドボールか野球か、どちらが？という比較が必要となってくる。

Y　つまりあの声明書で、ハンドボール協会が同情されたりハンドボールがこんごなにかのときに有利になるかというとそうじゃない。そのことをよく知っておく必要がハンドボール界自身にあると思う。

X　そうなんだ。だからこういうムードのなかだと、ハンドボール協会が世界選手権を日本で開くバックアップをしてくれるというとなにか、それが当然の代替のように聞こえるが決してそうじゃない。もともとオリンピックの代りに世界選手権をといっだようなことが大会の性質上から見てもいえるもンじゃないンだ、この二つは…。

Y　だいぶ手きびしいが、さっきもいったように日本じゃあ、国際試合をやるかやらないか、ましてやハンドボールのような場合は普及上の死活問題なんだ。だから、世界選手権とかデモンストレーションとかは別問題としても体協にしても、JOCにしても、ハンドボールのこんごのために、なにか手を貸してやって欲しいものだネ。

X　それは津島会長も昨年、ハンドボールが組織委員会の決定でさく減と決まったとき、いっていましたヨ。「なにか救済方法を考えてやらないと」とネ。

Z　ともかく、ハンドボール協会が声明書を出したこともその内容、つまり条理も間違ったことではない、出すぎたことでもないンだ。だからこれからあとはハンドボール協会が投じた一石が東京大会の成功につながるようハンドボール協会も、ハンドボールプレイヤーも祈ってこそ意義があると思う。感情的なやりとりだったらおたがいに損になるばかりだ。ハンドボール協会の立場、ハンドボール界の言い分は十分世間もわかったのだから一応の成果はあったのではないかと思う。

X　そうですネ。あの声明書によってJOCやOOCの人事上の構成や東京大会の基盤が動くことはまず考えられないことだし、〃出した意義〃が最大にして無二の意義ということになるのでしょう。

第13回全日本総合選手権

芝浦工大、大崎電気を破り3連勝

ことしの全日本総合選手権は8月13日から岡山県の倉敷市青陵高グラウンドに全国から男子 38, 女子 15 チームが参加して行なわれた。

女子は愛知紡績5連勝の偉業

男子の部

第一日

一回戦六試合、二回戦十試合

▽一回戦

全教大（東京）	30	15―3 15―1	4	小松実高（石川）
全関学（兵庫）	18	11―4 7―6	10	福岡ク（福岡）
全同大（京都）	25	14―4 11―7	11	大阪府大（大阪）
法大（東京）	24	13―1 11―2	3	天城高OB（岡山）
明大（東京）	14	5―4 9―1	5	全大阪経大（大阪）
法友ク（神奈川）	16	8―8 8―6	14	全岡山A（岡山）

▽二回戦

イーグルス（大阪）	24	12―5 12―7	12	明星ク（東京）
立大（東京）	24	11―4 13―6	10	全岡山B（岡山）
全慶大（東京）	15	5―2 10―3	5	天城高（岡山）
京都ク（京都）	15	10―3 5―2	5	防衛大（神奈川）
明友会（東京）	14	8―2 6―5	7	津山商高（岡山）
弦月会（兵庫）	16	8―6 8―4	10	全盈進商（広島）
日体大（東京）	20	12―0 8―2	2	倉敷ク（岡山）
芝浦ク（東京）	22	13―2 9―3	5	愛知商業ク（愛知）
山口ク（山口）	15	8―7 7―7	14	全関大（大阪）
早大（東京）	19	5―10 9―4 2―1 3―1	16	桃山学院大（大阪）

○…第八回いらい久々に登場の全関学や全慶大、それに関西の学生勢が珍しく多数姿を見せた。この日最大の番狂わせは、高村（世界選手権出場）を有する全関大が山口クラブに敗れたことで、横瀬、常田らのベテランを軸に徹底した遅攻をとった山口の老練な勝利だった。このほかはまず順当に終ったが、この日登場した地元岡山勢は全部敗退。また新進桃山学院大は早大に延長のすえ惜敗した。

第二日

二回戦六試合、三回戦八試合

▽二回戦

全日体大（東京）	16	8―6 8―2	8	明大（東京）
全同大（京都）	16	7―8 9―2	10	住友化学（愛媛）
桜丘会（愛知）	24	9―3 15―7	10	法大（東京）
全関学（兵庫）	30	14―0 16―0	0	桃山ク（京都）
芝浦工大（東京）	28	14―4 14―3	7	全教大（東京）
大崎電気（東京）	22	12―3 10―5	8	法友ク（神奈川）

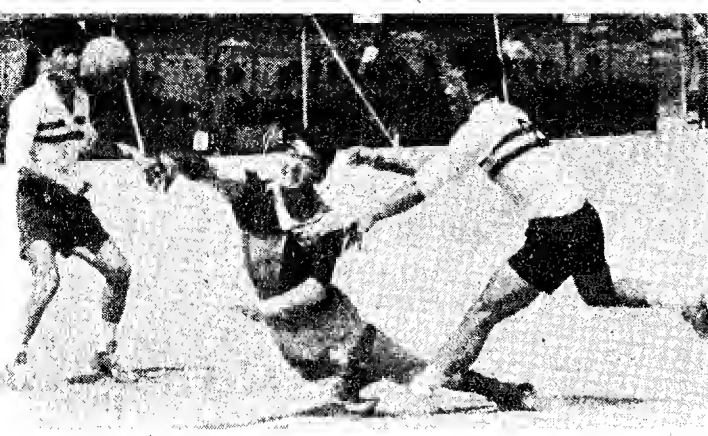
▽三回戦

日体大（東京）	15	5―6 10―5	11	弦月会（兵庫）
芝浦ク（東京）	12	7―7 5―4	11	全慶大（東京）
大崎電気（東京）	17	8―5 9―3	8	早大（東京）
桜丘会（愛知）	21	8―7 13―6	13	イーグルス（大阪）
全関学（兵庫）	17	6―3 11―7	10	山口ク（山口）
全日体大（東京）	21	10―5 11―9	14	立大（東京）
全同大（京都）	25	14―4 11―6	10	明友会（東京）
芝浦工大（東京）	15	8―2 7―6	8	京都ク（京都）

○…シードチームの登場で引しまり、全関学―桃山ク戦を除けば一応最後まで興味のつなげる試合が多かった。第一日は予選制採用の声が強まるのも当然のような試合があった。その点、この日登場の大半のチームはいずれも全日本を争うにふさわしい攻守を備えていたといってよい。住友化学菊本は年々チーム力を上げて大会にのぞんでいるが、全同大に前半1点差をつけスタンドの関心を集めたが後半は体力差が現われた。全慶大も芝浦クを苦しめたが、最後芝浦クの近藤（世界選手権出場）の巧技にしてやられた。全関学―山口クは、山口が前日全関大を食っているだけに注目されたが、全関学FWに一歩をゆずり全関学の順当勝ち。気鋭の立大は全日体大をよく追った。またこの日名門全教大の低調が淋しく感じられた。



芝浦工大対大崎電気の決勝



第三日 準々決勝四試合

芝浦工大（東京）16（8—4・8—6）10 全同大（京都）

◇ 芝工大は前半RW佐藤の活躍で優位に立ち、後半は同大の追撃に一度は2点差まで追い込まれたが要所でしまり振り切った。試合の展開力で芝工大に一日の長があった。

桜丘会（愛知）16（7—6・9—3）9 日体大（東京）

◇ 山田、服部の世界選手権組にベテラン浅野を加えた桜丘会が前半こそ追われたが、後半は時間とともに差をつけた。

全日体大（東京）18（8—7・10—7）14 芝浦ク（東京）

◇ 全日体大が井上、山下の二枚のポイントゲッターを有するのに引きかえ、芝浦クは近藤一人で後半はその差が現われたような結果になった。芝浦クの粘りは一応賞されてよかろう。

大崎電気（東京）20（11—5・9—9）14 全関学（兵庫）

◇ 初顔合わせの好取組。大崎はエース竹野の故障からFW力が心配されたが、LI井上がすっかり自信をつけてあざやかなプレーをみせ、しかも全関学の守備陣が前半呼吸が整はず乱調だったため意外の大差となった。後半、全関学は必死の反撃を試みたが1点入れられれば1点返す大崎の着実な攻法に前半の点差をつめることができず敗退した。

第四日 準決勝二試合

芝浦工大（東京）21（11—6・10—8）14 桜丘会（愛知）

◇ 前半10分すぎまでは互角。しかしその後は芝浦工大の佐藤、越智の両ウイングのシュートが決まり出し、徐々に点差を開いていった。後半桜丘会は風上を利して追い込んだが、芝浦も攻撃の手を休めず食い下がる桜丘会を振り放した。ベテランをそろえた桜丘会の"柔"も"巧"も、芝浦工大の"力""剛"に屈した形だった。

【桜丘】		【芝浦】
渡辺	GK	谷
堀	FB	勝倉
伊藤	FB	久保
宇津野	HB	中村
斉藤	HB	斉藤
豊島	HB	野村
牧野	FW	佐藤
浅野	FW	金山
山田	FW	北村
服部	FW	福島
尾之内	FW	越智
30	ST	32
34	反則	49

大崎電気（東京）14（6—3・8—9）12 全日体大（東京）

◇ 昨年のこの大会の準決勝は12—8で大崎、今春の全日本総合室内の決勝は16—14で全日体大と、一年にして早くも激しいライバル意識をもっている。両チームは最初から激しい攻防をみせ、期待通りの熱戦となった。この日採った戦法も大崎は相変らずのパスアンドラッシュ。全日体大は巧者らしく速・遅攻の使い分けとベンチワークも正に対照的。しかし、大崎は前半、宮原、井上、竹野の左サイドが巧みなクロスプレーとオープン攻法を併用して、全日体大のバックスをゆさぶり着々と加点した。一方の全日体大は後半CF栗本に当りが出て、LW井上とのコンビネーションプレーが生きて激しく追ったが、大崎は前半の優勢を持続して結局押し切った。

【大崎】		【日体】
福本	GK	福田
高森	FB	蓮井
高橋	FB	久保田
村上	HB	青木（崇）
田口	HB	宇田川
高井	HB	北川
杉山	FW	小林
小谷内	FW	山下
宮原（藤）	FW	栗本
井上	FW	青木（義）
竹野	FW	井上
40	シュート	35
29	反則	18

第五日 三位決定戦、決勝

▽三位決定戦

桜丘会（愛知）24（12—12・12—8）20 全日体大（東京）

◇ 桜丘会の三位は第九回大会に次いで二度目。常勝の名を欲しいままにした全日体大が四位になったのはこの大会が初めてであり、名門の奮起が待たれよう。

▽決勝戦

芝浦工大（東京）17（9—9・8—5）14 大崎電気（東京）

昨年の決勝も同じ顔合わせ。昨年芝工大（優勝）のユニホームを着けて戦かったGK福本、CH田口がことしから大崎のチームの正選手として登場。お互いになんども練習試合をし、手のうちは知りつくしているハズだった。それが、かえって両チームを堅くさせ、開始直後は動きが鈍く、とくに芝浦は凡プレーが多かった。その虚を大崎はついて5分（竹野）、7分（井上）、8分（井上）と得点、13分には6—2と順調にリードした。しかし、芝浦はリードされてからかえってプレーがのびのびとし、北村、越智の左サイドが確実に決め出して7分間に連続4ゲット、6—6のタイとした。大崎は少しもあわてず井上、竹野、井上と決めて再び9—6と優位に立ち、この試合ぶりから見て、「ことしは大崎」の声がスタンドにチラホラし始めた。だが粘る芝浦は

大会スケッチ

泣きっ面に蚊？

▽…倉敷市はとても暑い。グラウンドは乾きに乾いてしまい、市役所の散水車が試合の合い間をみて走り回った。広いグラウンドを一台の散水車がハンドボールの速攻よろしく手ぎわよく散水した。主催者がここまで気を使ってくれたのはよかった。

▽…しかし、夜、宿舎での蚊の攻勢にはどのチームも相当参ったようだ。昼間は暑さに襲われ、夜は蚊に攻められては、まさに"泣きっ面に蚊？"。来年の国体は十月だからいいようなものの と皮肉な声も聞えたが岡山さんなんとかせにゃあ あきまへんぜ。

芝工大不断の練習が勝因

総評　好チーム誕生で充実の女子



○…男子は三十八チームが参加したが予想どおりベスト・4には芝浦工大、大崎電気、桜丘会、全日体大が残った。いまのハンドボール界はこの四チームが圧倒的な強さを持っており、他のチームの食い入る余地はない。当分の間こんな調子が続くのではないか。ハンドボールがさらに大きく飛躍するならば、この4チームを打倒するチームが現われることだ。ところで大会は芝浦工大の3連勝に終った。大会前の予想は大崎電気—芝浦工大の決勝ということであった。優勝は芝浦工大とみる人、大崎電気の初優勝とみる人と真っ二つに分れていた。わたしは大崎電気を買って出たが、これはみごとにはずれてしまった。なぜ大崎電気を買ったか。昨年まで芝浦工大の現役だった福本（GK）、田口（HB）の入社で大崎の戦力が倍加した。芝浦は逆に村上（FB）、尾藤（FB）、山田（FW）の卒業でスケールが小さくなった。これをみて大崎優勝の線を打ち出した。それだけに芝浦工大が優勝したのは立派である。芝浦工大3連勝の因をさがすと、それは「一にも二も練習」である。東京での練習、松本での強化合宿と一日も休まず練習をつづけてきた。大崎電気も、連日2—3時間の猛練習を積んだが、社会人と学生とは練習時間に大きな差があった。これが優勝—準優勝の結果となって現われた。芝浦工大は越智の長足の進歩、佐藤（世界選手権出場）の正確無比なシュート、新人森田（中京商卒）のCF起用、主将勝倉を中心としたバックスの堅さが3連勝に結びついた。越智は気が弱いところがあるが、ことしになってから試合度胸が出て、芝浦伝統の速攻をみせてくれた。佐藤—越智の両ウイングが芝浦のあげた得点のほとんどを占めている。越智が自信を持ったことは大きな収穫である。佐藤の正確なシュートは定評があり、世界選手権に出場してからますます磨きがかかった。この越智—佐藤のコンビは昨年までの山田を中心としてFWにくらべ優さるとも劣らないものがある。バックスもすばらしかった。準決勝で桜丘会のFW、とくにCF山田を完全にマークし、徹底的につぶした。山田はチャンス・メーカーであり、この山田がつぶされては得点力が半減するのは当然である。芝浦が大崎との決勝戦で前半10分まで4—1、13分まで5—1とリードされたときは芝浦工大3連勝は考えもつかなかった。それを前半終了までに9—9と追いついたのは若さと練習量が大きく物をいっている。

○…大崎電気は昨年につづいてまたも芝浦工大に敗れて2位となった。その原因はどこにあるのか。第一にポイント・ゲッター竹野の不調である。大会中に下痢を起こして彼本来の力が出なかったこと。第二に宮原(後)が欠場したことである。昨年の国体（熊本）で右足を痛め一時は回復したが、ことしの四月にふたたび痛めてしまった。もし宮原（後）が出場していたら優勝したことだろう。杉山、井上がよく働いた。CF宮原（藤）がチャンスメーカーとなって杉山、井上にチャンスをあたえた。決勝戦の前半の9点のうち井上は4点をあげ、後半にも2点をあげた。竹野の不調、宮原（後）の欠場を十分補なっていた。バックスはすばらしい出来をみせたが、決勝では固まりすぎて芝浦工大FWにふり回され

24分北村が得点、27分にも北村が持ち込んで8—9とし、29分越智の殊勲の同点シュートで9—9となり前半を終った。

	【大崎】	【芝浦】
GK	福本	谷
FB	高森　高橋	勝倉　久保
HB	村上　田口　高井	中村　斉藤　野村
FW	杉山　小谷内　宮原(藤)　井上　竹野	佐藤　金川　森田　北村　越智
シュート	34	34
反則	29	48

（主審　荒川）

後半、芝浦は風上を利してまず佐藤がゲットして10—9とこの試合初めてリードを奪い、このあとはすっかり自分のペースで試合を進めた。即ちオープン攻撃を多用して大崎バックスのくずれを待ち、佐藤、北村、越智がサイドに出て好シュートを放った。そして守っては、やや疲れの見えた大崎FWの動きをバックスがよくマークし、GK谷の堅守もあって、追加点を許さず、20分6—3（合計15—12）として勝負の見通しをつけたかにみえた。しかし大崎もさすがで、このあと24分井上のゲットで6—4（15—13）27分には14米スローを得て、竹野が決め6—5（15—14）、再びスタンドを騒然とさせた。15—14となったあと芝浦は佐藤が、あざやかに決めて16—14とした。このシュートは大

ていた。しかしCH田口の激しいアタックは芝浦といえども再三苦しめられていた。大崎電気の渡辺社長は「絶対優勝してみせる」とはりきっていたが、後半10分から19分まで1点もはいらなかったのでなかばあきらめていた様子だった。宮原（後）が第一線に出場すれば芝浦工大といえども、いままでのように楽勝は望めない。

○…桜丘会は高村（世界選手権出場）が全関大から出場したのでFWは弱いようだったが、服部—山田—浅野の三人がよく走っていた。浅野が準決勝の芝浦工大戦にひとりで9点をあげたのは驚異的だった。全日体大は名門としては物足りなかった。小林（現役）の不調が大きく響いた。若い選手はもっと走らなければ勝機はつかめない。

○…全同志社大、全関学がベスト8にはいったのは関西のチームのためによかった。ただ学生現役チームの芝浦工大、日体大がベスト8に進んだが、その他の大学チームはなんとも救いようがない。

○…どのスポーツでも学生チームが強くならないと試合はおもしろくない。また男子二回戦で全関学が桃山クラブを30—0で破ったが、1点もとれぬ桃山クラブの奮起を望みたい。いやしくも全日本に出場するチームなら練習を十分積んだうえで出るべきである。あるいは地方で予選を開いて選抜するか、推薦するかの手を考えてもいい時機にきている。

○…一方女子は15チームが参加したが愛知紡の連勝で幕を閉じた。ことしチームを結成した大洋デパート（熊本）が決勝に進出し、しかも延長戦に持ち込んだのは大いに賞される。大洋デパートのチームをみると熊本市立高、菊池農蚕の出身者ばかりである。ことし一月の全日本インドアに出場した熊本商大クラブに菊池農蚕から四人が加わったものである。強いのは当然である。決勝でポイントゲッターの西村（八）のブレーキで優勝を逸したが、来年の大会は恐らく愛知紡を大きく引き離すことだろう。井手、今池、関のベテランの活躍はチームを大いに引きしめていた。愛知紡は伝統があるだけに、ここぞという場面になるとやはり強い。沢田、青木、磯部、塚原らはスピードに富み、決勝戦の延長前半30分に塚原が右サイドから決勝点を、沢田もダメ押し点を入れた。3位の大崎電気は栃木女、水海道二高、静岡城北、石岡高の好選手を集めているだけに試合運びがうまかった。もう少しスピードがつくと大いに楽しみだ。宇井（栃木女）が中心となっている。レナウンは芝浦工大出身の塩川君が監督となってチームを結成した。これからのチームである。大洋デパート、大崎電気、レナウンの社会人チームが生れたのは女子球界のため、日本ハンドボール界のためによろこばしいことである。三国ヶ丘クラブ（大阪）は準決勝で愛知紡と対戦し、15—0で負けたのはどうしたことか。ベスト4に残るチームならもう少しなんとかなりそうなものだ。【O】

大会スケッチ

青陵ク、珍しい反則負け

○…第二日目の女子準々決勝の三国丘ク（大阪）対青陵ク（岡山）は青陵クの反則負けという珍しい結果に終った。もちろん、全日本では初めてのことだ。

○…試合は終始1点を争う激戦、後半15分8—7とリードされた三国丘クがRW釜下のシュートで8—8のタイとしたあと〝問題のプレー〟が起こった。同点となってエキサイトした両チームがルーズボールを追ったさい、青陵クRB高谷が相手選手と衝突して倒れた。青陵ベンチはすぐ水谷と交代させた。

○…ところがこの水谷の起用が青陵クの当日の正式登録選手（エントリー）にはあったが、GK以外の位置とは交代できぬ四人目の選手で、「フィールドプレイヤーの交代は三人まで」との規則（第三条第一項）に違反したのである。このため大会本部ではルール違反ならびに登録違反としてこの試合を没収し、三国丘クの反則勝ちと決めた。

○…青陵クの三宅節子監督は『補欠の四人のうち、フィールドプレイヤーは三人であと一人はGK。しかもそのGKがフィールドプレイヤーの代行はできないことも知っていた。ウチはGKの補欠がいないため、フィールドプレイヤー四人を登録していた。そのためなに気なく四人目を出してしまった。エキサイトしていたとはいえ、大変なミスでした。選手には気の毒です』と極めて神妙。

崎に追撃を断念させるには、実に効果的で、佐藤の気力と好技が賞されよう。

かくして、芝浦工大はここに第十一回大会いらい三年連続優勝をとげ、今春いらい関東学生リーグで7、全日本学生で5、今大会で5と合計17連続の白星をあげ、再び連勝街道と四冠王へのスタートを整えることに成功した。

大会前、絶対の優勝候補といわれた大崎電気は、決勝ではやはりOB（社会人）と現役（学生）という体力差が現われ惜敗した。結果論ながら前半23分9—6とリードしたあと、ズルズルと失点したのがたたったワケで、このときなんとか策の施しようがなかったものかと惜しまれる。

日体大が韓国に遠征

日体大ハンドボールチームが十月二十日羽田発で韓国に遠征する。団長は栗本義彦氏（日体大監督）、副団長馬場太郎氏（協会副会長）、監督荒川清美氏（日体大監督）ら一行二十人。韓国で8—10試合行ない、十一月四日ごろ帰国する。

ハンドボールの海外遠征はことし二月の欧州遠征に次いで2度目。

大洋デパートの健斗むなし

女子の部

第一日　一回戦七試合

全尼崎（兵庫）13（6—1／7—0）1 日女体短大（東京）
三国丘ク（大阪）9（8—2／1—3）5 日体大OG（東京）
青陵ク（岡山）8（4—5／4—2）7 清水女商（静岡）
水海道第二（茨城）9（6—3／3—2）5 桜花ク（大阪）
大洋デパート（熊本）19（11—3／8—2）5 レナウン（東京）
大崎電気（東京）12（7—1／5—2）3 稲沢高（愛知）
日体大（東京）13（7—1／6—5）6 井原高ク（岡山）



優勝の感激にむせぶ愛知紡チーム

○…新顔の実業団三チーム、全国高校二位の水海道二高など男子以上に話題が多かったが、一回戦は実力がどの試合もはっきりしすぎており、青陵ク—清水女商戦を除いてはほとんど一方的なゲームだった。高校OGの三国ヶ丘クが日体大OGを破ったのは番狂わせだったが、日体大OGはコンビネーションが悪く、この日に限っていえば実力負け。なお大洋—レナウン戦は日本で最初の女子実業団同士の対戦である。

第二日　準々決勝四試合

愛知紡績（愛知）15（8—0／7—4）4 全尼崎（兵庫）

◇前半であっさり勝負が決まってしまった。愛知紡績のチームコンデイションは最高。

三国丘ク（大阪）8（6—5／2—3）8 青陵ク（岡山）
反則勝ち

◇互いに持味を生かしたおもしろいゲームだったが結果は意外なことになった。青陵クラブがチエンジメンバーに未登録選手を出場させたため、〃反則負〃を宣せられた。全国大会ではおそらく初めてのケースだろう。珍記録なだけに本部席もだいぶまごついたが、8—8のスコアはあくまで参考記録である。

大洋デパート 12（6—4／6—1）5 水海道二高（茨城）

◇インターハイの準優勝校も熊本オールスターといった感じの大洋デパートには攻守に数段の差が認められ勝目は全くなかった。大洋はしばしば鮮やかな速攻をみせ、特に後半の攻撃ぶりは文句なしの出来だった。

大崎電気（東京）14（6—5／8—4）9 日体大（東京）

◇ともにFWがよく動き好ゲームだった。しかし大崎は関東の名門高校から働き手ばかりを集めたチームだけに、勝機をつかむのに敏で、逆にこの点、日体大は物足りなかった。それにチームは新しいが、大崎の選手の方が試合馴れていたのも見のがせない。

第三日　準決勝二試合

愛知紡績（愛知）15（8—0／7—0）0 三国丘ク（大阪）

◇準決勝で15点差、第8回大会に18—3の記録があるが、零封勝ちは珍しい。

大洋デパート（熊本）16（8—4／8—6）10 大崎電気（東京）

◇大崎の善戦から激闘となった。大崎は熊本をよく研究していたようだった。熊本の誇る今池、久連松、西村（八）のFWトリオはいぜん健在で、HB井手の好リードも大きかった。結局は力の差がスコアになったが、大崎はいま一歩チームにたくましさが欲しい。

第四日　三位決定戦、決勝戦

▽三位決定戦

大崎電気（東京）11（6—3／5—1）4 三国丘ク（大阪）

▽決勝戦

愛知紡績（愛知）8（3—4／3—2／0—0／2—0）6 大洋デパート（熊本）

◇球史を飾るにふさわしい好ゲームだった。愛知紡績は試合開始直後、得意のサイド攻撃で連続ゲットし3—1と優位に立った。しかし、大洋はこのあとデフエンスを固めて愛知紡の攻撃を食い止める一方RW今池が好技を連続してハーフタイムには逆に4—3と1点リードした。このあたり相手の動きをみてすかさずデフエンス体形を変えるなど、大洋はさすがにベテラン、巧者ぞろいらしかった。しかし、愛知紡のFWも磯部、沢田が後半、徐々に熊本を圧倒し加点すれば、大洋も慎重な攻撃でポイント、愛知紡が三転6—5とした。そのまま押し切るかにみえたが、タイムアップ寸前大洋はLW西村（八）が決めて6—6となり延長にもつれこんだ。

【大洋】		【愛紡】
西村(美)	GK	篠崎
千原 徳永 井手	B	山崎 宮本 塚原
今池 久蓮松 西村(八)	FW	磯部 青木 沢田
関	交代	
19	ST	29
37	反則	27
1	7M投	0

（主審）越智

延長にはいると両チームともますます慎重に攻めたが、互いに相手の守備陣をくずせぬまま後半にはいった。

ここで、愛知紡は再びローリング・オフエンスから機をみて塚原が強引とも思えるミドル・シュートを放てばこれがあざやかに決まって待望のリード。そして必死に粘る大洋の息の根をとめるようにタイムアップ近く沢田が左サイドから好シュートを放って、遂に第九回大会に初出場で初優勝していらい五年連続優勝を遂げるという大偉業を打ち樹てた。しかし、大洋の健闘もあっぱれで、敗れて悔いのない立派なものだった。

ヨーロッパ遠征記

（その一）

世界選手権
日本代表監督　高嶋　洌

まえがき

全国のハンドボール愛好者の絶大な支援と期待をになって、協会創設いらい初の海外遠征を行なってからはや数ヶ月を経過した。その間すぐ報告をすべきであったが、紙面の都合その他で今号まで延びたことを深くおわびする。本号から編集部の紙面の許す限り、できるだけ詳細な報告を行ないたい。

× × ×

約二カ月にわたるヨーロッパ遠征をふり返り、あのいそがしさと気苦労のなかでよくまあ二十五試合もできたものだと、いまさらのように選手諸君の健闘に感謝している。

今回の遠征の第一の目的は、西ドイツで行なわれた第四回男子七人制世界選手権大会に出場することであり、第二はその機会を利用して出来得る限り多くの国々で、数多くのゲームを行なって、技術の向上をはかることであった。第三の目的は数多くの国々を回ることによって、若い選手達に国際感覚を植えつけると同時に、夢を持たせることであった。

第一の目的である世界選手権大会においては、強豪チェコスロバキアおよびルーマニアに完敗した。しかもこの両チームがついに決勝に進出して、第二延長におよぶ大熱戦を展開したことも、なにかの因縁がありそうな気がする。

大会で対戦したチェコスロバキア及びルーマニアは、想像以上の強さであったし、事実スコアーの上ではたしかに大差がついた。しかし、私はあまり悲観はしていない。あの特殊なふん囲気と、あの大観衆を前にして初の遠征としては選手たちはむしろよくやったとさえ思っている。

昨今外国遠征を行なう他の競技の役員選手が体格の差をうんぬんするが、これはたしかに不利であることに間違いはない。しかし背の低いこと自体は日本人に負わされた宿命であり、西欧諸国の選手と同じになるようなことは、〃百年河清を待つ〃にひとしいことである。

われわれにも体格の差はたしかに大きな影響をもたらした。しかしながら、個人のテクニック、或はボディコントロールなどは少しも負けず、むしろ日本人特有のプレーがしばしば賞賛されたことから考えても外国遠征の回数を増し、戦術についてのたゆまざる交流をはかれば、その差は急速に縮めることが出来ると信じている。

技術的にみて、本年はハンドボールの一大転換期になるのではないかと考えられる。それは昨年までの世界ハンドボール界は（ここではすべて七人制ハンドボールについてのみ記述するので、誤解のないように）スウェーデン、デンマークなどを主流とするスカンジナビア諸国の個人技を主体とする技巧派、ドイツ、チェコスロバキアなどの主張する力とスピードに重点をおく、本格流と二分され、そしてつねに前者が勝利をおさめてきた。

事実前者とくにスウェーデンの試合をみていると、スポーツといった感じより、むしろショーといいたいぐらい個人技がすばらしい。――パスは背中のうしろや、マタの下から自由自在に行なわれる――軽業師のむれをみるようであるが、これが世界の第三位になったところに、前述した技術的な転換があるのではないかと考えられる。しかし、力とスピードの代表派であるチェコスロバキア及びルーマニアが、ともに決勝に進出したことによってなお一層その感が強いのである。

決勝戦のチェコスロバキア対ルーマニアの試合を見て感じたことは、まず第一に、よくここまで人間を鍛え上げられたものだということである。とくにルーマニア選手にそれを感じたが、彼等は一時間四十分（第二延長まで）の間、ほとんどメンバーチェンジを行なわず（二、三の例外はあるが）しかも終始動きが鈍らないのには驚いた。なんだか〃人間も鍛えれば、ここまでやれるんだ！〃という見本をみせつけられたような気がしたのはわたくし一人ではないと思う。

技術的に共通している主な点は、

一、すべて六人攻撃、六人防禦であること。この場合フィールドプレーヤーの六人に、オフェンス・ディフェンスの技術の差がないことが、いかに選手の基本技術に力を入れているかを物語るものである。事実優秀な攻撃者がどんなに点を取っても、防禦の際に、それ以上の点を取られれば、チームとしてはマイナスであるのだから――。

二、ゴールキーパーが防禦のさい、極端に足を多く使用すること。

腰から下のボールは、ほとんど足で止めるといっても過言ではない。したがって身体の全部が余さず防禦体になってくるので、必然的に前進守備（シューターへのアタック）も可能になってくる。

三、原則として、すべて速攻の連続である。

デフェンスをしているフィールドプ



世界選手権大会から

レーヤーは、相手がシュートしたとみるや猛烈に相手陣内に殺到する。ゴールインしてもいづれはハーフラインまでもどらなければならないのだから——。

四、セットオフェンスにさいしては、両サイドのコーナーぎりぎりまでを、ローリングの範囲として使用する。これは投球力と、サイドからのシュート力に多分に関連があるが一考を要する問題である。

五、目まぐるしく選手の交代を行なう。

これはカールスルーエでの第一戦終了後私もケンパ氏（西独ハンドボール界の第一人者）から注意を受けたが、選手交代はスムーズですばやい。

六、ロングシュートを多用する。

どのチームも、ほんのちょっとの間をみて、ロングシュートを行なう。ルーマニアの世界制覇は、ロングシュートの勝利といっても過言でない。

遠征の第二の目的は、各国のいろいろのチームとなるべく数多くの試合を行なって、彼らの長所を吸収することであったが、この計画は大成功だったと信じている。

相手があって試合をする以上、勝つことがよいことは当然のことである。それにしても通算して13勝10敗2引分の成績は、ハンドボールの本場であるヨーロッパに生れて初めて遠征した選手団としては、立派なものだと自画自賛している。それだけに若い選手たちがよく規律正しく行動し、あらゆるところで絶賛をうける立派な態度でのぞんでくれた。良い伝統を築いたものとして改めて敬意を表したい。

ヨーロッパにおいては、ナショナルチーム（その国を代表するチーム）と、それ以外の第二線以下のチームとの技術的な差が極めて大きい。これは、ナショナルチームに対しては国家が大きな予算と計画をもって、徹底的な訓練を行なっているからだ。言葉をかえていえば、東欧圏はもちろんのこと、西欧諸国も次第にステートアマチュア化しつつあり、この点は日本のスポーツ界も、早急に考えてみなければならないことだろうと思う。

一例をあげれば、フランスでは（この国はいままでスポーツにそれほど力を入れていなかった）あらゆる種目の有名なスポーツマンは、パリー郊外にあるジュアンビル（地名）の軍隊に入れられ、ここでスポーツの猛烈な訓練をうけている。このジュアンビルの軍隊は、スポーツ専門で制服の腕には五輪に似せて三輪のマークを入れ、市民も「ああ、あれは戦争をしない軍隊だよ」といってすべて承知の上だ。そしてフランスのナショナルチームは、ほとんどこの軍人で他に少数の大学生を加えて編成されている。この服務期間は約二カ年で、その後はまたそれぞれの職場に帰って行くというシステムを作り上げている。

（つづく）

強豪の敗因、第二ラインの欠除

日本チームは経験不足、だが将来に期待

国際協会広報抜萃

ルーマニアの勝因分析

「7人制ハンドボールは危機にひんしていると思うか？」この質問はあるスポーツ紙によってとりあげられ、世界選手権大会決勝のチェコ対ルーマニア戦に来ていた何人かの観衆に対して発せられたものである。というのはこの決勝戦は感動的で劇的ではあったけれども、7人制ハンドボールの良さとダイナミックな点が十分示されることを期待してこの対戦を見に来た人々を失望させたからである。

世界のチャンピオンのタイトルがかかっている試合では、試合結果の方が試合の美しさより先行するということが大きな特徴であることを明らかにしなければならない。選手権大会の全期間を通じて、ルーマニアはボールを失う危険を慎重に避け、パスを回すという競技方法を実行してきた。これがルーマニアを成

欧州における審判の方法 ①

日本代表団役員
荒川清美

表題に関しては、帰国早々に愛好者各位に報告すべき問題でありましたが、ついにその機会を得ることがなく、今日となりました。まことに失礼であるばかりでなく、相済まないことと深くおわびをするところであります。しかし欧州における審判の方法といってこと新らしく取り上げ、問題とすることがないことは昨年ルーマニアチームの来日によって実証されていることであります。

今回たまたま取り上げてみたいことは審判員と選手間のものの考え方が全く同じである。この実例を説明しながら、規則の問題などと合わせて参考になればと、その一部分を簡単に紹介してみることにします。

まず最初に競技場より取り上げてみますが、競技場のサイドライン、ゴールラインを立体的にみることはルーマニアチームによって証明されたことであります。

従って欧洲においてもかかる見地より審判が行われているのであります。広さにおいても日本と同じく世界選手権大会（以后は大会と言う）も二〇・四〇米の競技場を使用していたのであります。

その他各国の競技場は（フランス、ドイツ、チェコ）においても最少限以下の競技場もあり、また広いときは別に床面がコンクリートのものまで非常にまちまちであった。大会の対ルーマニア戦はこのようにコ

功には導いたが、試合をおもしろくなくさせた。

だから某スポーツ紙のいうように、「7人制ハンドボールはこのために危機にひんしているだろうか?」ノー! この質問は全く必要がない。この世界選手権大会の全試合がその美しさによって観衆を熱狂させたことを少しでも考えてみれば十分である。たとえばベルリンにおけるスウェーデン対チェコ戦やミュンスターにおけるドイツ対デンマーク戦、あるいはアイスランド、ユーゴスラヴィア、ノールウェー、フランスなどのチームにより展開されたまぶしいほどのスピードのある試合である。

※　※

これに反してもう一つ別の質問が課せられるべきである。「なぜ強力チームがルーマニアの競技方法に屈服させられたのか?」という質問である。この質問に答えることはかなり容易に思える。チェコスロヴアキア・デンマーク・ドイツがこうむった敗北は基本的には「第二ライン」の欠除に原因する。「第二ライン」とはフリースローラインの後方から敵のバックの頭上を越えてジャンプシュートをする強力なシューターにより形成される第二の攻撃ラインのことである。

ドイツチームはギール、ニッシャー、ヒルシュといった強力シューターがよくエリア・ラインまで、突つ込んだ。試合開始当初シュートが決らなかったのでボールを失うことをおそれるようになり、十分な動きが鈍くなった瞬間からルーマニアに敗れていた。さらにハブリック、デニダ、ヘルマンにより形成されたもう一つの攻撃ラインが得点できなかったので、敗北は確定的になった。

一方ルーマニアは優れたゴールキーパー・レドルを持ち、さらにブルガル、巨人モゼルといったあなどるべからざる二人の第二ライン得点源を持っていたことを認識する必要がある。

非常に声援をうけたドイツチームが果せなかったことを、第七位のノルウェーチームがその強力な第二ラインの故に、14対16でルーマニアに惜敗したことによってほぼ実現した。

強力な第二ライン得点源をもったスウェーデンとルーマニアの対戦は不運にも行なわれなかったが、もし行なわれていたら以上のべた仮説を確認できたと思う。

日本チームの評価

7人制ハンドボールの価値に疑問を持つ者は日本チームの試合ぶりをみなかった者である。事実彼らの現われたところではどこにおいても彼らのボールさばきの巧妙さが観衆の感嘆と興味をわかせた。日本の若い選手はものすごく敏しょうであるばかりでなく、彼らはたとえ敗れてもその試合を必ず成功にみちびく一種のコミックな要素を試合ぶりのなかに持っている。第一次リーグでクジ運は不運にも彼らを世界最強の二チームと対戦させた。いかなる楽観的希望も持てなかった。しかしドイツの各地方チームとの対戦は日本が得点されるのみでなく巧妙に得点することを示した。

ドイツの著名なプレイヤーであるペルナールケンパは日本チームにある期間付き添い、ギョッピンゲン・チームにより実行されているフエント方法を教えた。そのケンパは日本チームがヨーロッパチームにとってまもなくあなどるべからざる敵手になるだろうと評している。

※　※

経験の不足から競技規則の解釈について日本の誤りもいくらか見られた。荒川審判員はいくつかの試合のレフリーを行なったが、その誤まりを明らかにし、必要な修正を帰国するとすぐ行なうことになると思われる。

※　※

アジアの若い選手達はヨーロッパの旅で得た経験を生かすことになるだろう。またハンドボールが東京オリンピックの競技種目として採用されたなら、ヨーロッパチームはアジア的たくましさにヨーロッパ的技術を適用した準備十分の敵手を見出すことになるだろう。

日出づる国のわれらの客人は、この数週間でフランスで準備の4試合、次に世界選手権大会で本番の2試合、次にドイツ各地のチームと6試合、チェコで2試合、フランスで3試合、更にイスラエルで何試合か行うことになった。そして四月九日に日本へ帰った。数多くの招待・訪問・宴会の疲労を彼ら独特の微笑と抵抗をみせながら果していった。

(国際ハンドボール協会広報七人制世界選手権大会特集号抜萃ほん訳は渉外理事境井秀三)

ンクリートの競技場で行なわれたものであります。またフランスにおいては昼間は魚市場、夜になると体育館に早変りするという競技場でも試合を行なったものであります。日本におよそこのような場所もなければ、このような競技場で大会を開催することなどは考えられないことであります。欧州においてはこの状態において大会が運営されている。ゴールポストにしても上方下方とも正規のものよりも大きなものばかりでした。

フリースローラインにしても一メートルほどの長いラインで引かれ、間隔もばらばらでどれをみても正規のものがない。審判員にきいてみると、正規の答えをしてくれたので、審判員は承知していることを確認したわけです。

ボールについては規則通りに審判員は二個のボールを選定し使用している。無断で交代しているのではなく、あくまでも一個のボールを使用して運営され、已むを得ない場合のみ交代する方法をとっている。たとえばシュートをしたボールが場外に出たとき、直ちに代わりのボールでゴールスローなどをすると審判は試合を中止させ、改めてゴールスローをさせるという処置を用いている。競技者の交代にしても交代は規則通りベンチからさせているがフィルドプレィヤーは審判員に通告せずに交代をしている。この方法は日本と異なるので、国際連盟、ドイツの審判委員長(以下は両国委員長という)に、きいてみると、フィルドプレィヤーは無断で交代してもよいが、ゴールキーパーの交代は審判員に通告しなければ交代することは出来ないとのことでした。この実例をチェコ対ルーマニアの決勝戦に見ることが出来たのでそのことを次号に述べてみることにします。　(つゞく)

ハンドボール選手の基礎体力

ハンドボール協会
トレーニングドクター　広田公一

基礎体力がいかに大切か

長い年月にわたって水泳の練習をしていると、自ずと水泳に適したからだつきになる。重量挙げ選手はまた、重量挙げに適したからだがつくられる。ハンドボール選手の場合でもまったく同じである。たとえば筋肉についていえば、筋肉は使えば肥大するということから、ハンドボールの練習をつづけていけば、それが練習でよく使用する部分の筋肉が肥大するのは当然である。

ハンドボールの練習で、ハンドボールに最も適したからだがつくられる。ハンドボールの練習だけをつづけていくのがハンドボールに熟達する最もよい方法であると考える者もあるだろう。

ハンドボールの練習だけで確かにかなりの程度まで上達するし、しかも上達するもっとも近道である。

筋力・スピードなどハンドボール試合に必要な運動能力は、ハンドボールの練習中におのずと伸びていくであろうが、その練習から得られる向上には限度がある。

バスケットボールの試合のエネルギー代謝を測定したことがある。同一男子が前半・後半を通して全試合出場した例をみると、前半の30分ハーフでのエネルギー消費量は約260カロリーであった。試合の後半になるとみるからに動作が緩慢になり、前半では早や駆けで行なっていたドリブルも後半には歩いて行なうという状態であった。後半30分のエネルギー消費量は約180カロリーとたいへん低下している。

30分で260カロリーというと1分で約9カロリーになる。後半は毎分6カロリー低下している。マラソンランナーは1分間15〜16カロリーのエネルギー消費量で2時間30分を走破するという点を考えると、このバスケットボールの選手のスタミナはまだまだ十分でないと考えられる（実際はこのように単純に比較できないのであるが）。

ことし一月、全日本ハンドボール選手権大会をみる機会をもったが、前半の動きにくらべて後半の動きのにぶさが歯がゆいぐらいであった。エネルギー代謝からみてスタミナの不足を推測できる。

以上は一例にすぎないが、いま少し体力があればハンドボールの試合にあたって大変有利であると考えられる場合が多い。最近さかんに行なわれているサーキットトレーニングのようなものは、この点を考慮した基礎体力を高めるためのものである。

基礎体力は選手個々の現在における運動に対する素質と考えることができる。基礎体力の高いものほど運動に有利である。柔軟性のテストで柔軟性に乏しいと判定された者が、ハンドボールの練習や試合ではいかにも身のこなしが軟かいとみえる者もいよう。ボディコントロールで弱い体力をカバーして優秀な選手になっているものもあるだろう。しかしそれは決して基礎体力の必要性を否定しはしないのである。彼がもし基礎体力において現状より優れていれば、さらに優秀な選手になっていることは論ずるまでもないことと思う。

反応時間はかなり短い

六月の日曜日一日を割いて、全日本学生ハンドボール選手権大会の優秀チーム、芝浦工大、明治大学、早稲田大学三校の学生選手40名について基礎体力（体格、一般運動能力、健康診断の意を含めて血圧の測定）の測定を行なった。これはあくまでも現状における選手個々の基礎能力である。前掲の説明を理解して、足らざるを補うようにしてもらいたい。

「測　定」

測定方法はオリンピック強化対策委員会管理部会で採用した方式によった。この方式によると、他の運動種目との比較、外国選手との比較ができなにかと便利である。選手個々のデータをあげると繁雑になるので、ここではその算術平均だけをあげておく。参考までに昨年六月に来日したルーマニアの選手そのとき同時に行なった芝浦工大・日体大選手について関連項目のデータを附しておく。また本年六月日本代表バレーボール選手および東京大学一般学生のデータも附した。

「結　果」

(1)反応時間　音または光の合図とともに、できるだけ早く手もしくは足で電鍵をおすという方法を採用した。

われわれがかつて一般成人および東大野球部選手について測定した結果では、光で合図した場合の反応時間が230（単位$\frac{1}{1000}$秒）であったのと比較すると、ハンドボール選手の反応時間はかなり短かく優れている。しかし、ハンドボール選手のなかでは常識的に最も反応がすばやくなければならない筈のG・Kがいちばん反応時間がおそいのはどうしたものであろうか。優れたG・Kは単純な反応以外のもの、たとえばボールがゴールのどの隅に投げられるかを事前に察知して、あらかじめその方向に身体を動かそうとするというような判断の優劣などが一層重くなっているのであろうが。それにしても、反応は優れていた方がよい。

また反応時間のうちでも、ハンドボールの実際の動作に要求されるのは今回測定した単純局所反応ではなく、からだ全体をもって合図に応ずる全身反応、もしくは、ボールが左右上下いずれにこようがそれにできるだけ早く応ずる選択反応であろう。機会を改めてこの検査を行なってみたい。

(2)ハーバードステップテスト　循環機能が優れているかどうかをみるテストである。100点を越えれば優れていると判断して差し支えない。オリンピック参加のボートの選手は全員100点を越えている。ハンドボール選手では、平均すると100点を越えているが、

細かく検討すると、G・Kは4人中1人・F・Bは6人中2人・H・Bは10人中6人・F・Wは19人中5人が100点以下であり、77という低い者もいた。参考までに日本代表バレーボール選手では25人中約15人が100点以下であった。運動種目の特殊性が現われたものと思われる。とにかくすべての選手が100点以上になることが必要である。

(3)**血圧** 十分な安静時間後に測定した。したがって安静時血圧として信用できる。一般に選手諸君の年令では、安静時最大血圧が140以上になるのは正常ではない。しかも140をこえた者は40人中3人であった、かなり高い率である。これが運動選手の適応現象であるかどうかはこんご大いに検討する必要がある。3人については循環機能の精密検査を受けさせたい。

(4)**肺活量** 呼吸機能の示標といわれる。しかし運動種目、運動の優劣とは余り相関がないといわれる。但し肺活量が小さいのは良くない。

(5)**体前屈** からだの柔かさをみる項目である。数字が大きいほど柔かいということである。東大生およびバレーボール選手の平均13.5に比較して決してよいとはいえない。手指の先端が床につかないものが4人あった。他の能力で堅いからだを補なっているのであろう。もっとも、身体を前に曲げるというだけでなく、身体をうしろにそらすなどいろいろの柔軟性も測定して検討する必要がある。

(6)**上体起こし、ディッピング・懸垂屈腕** 筋肉の持久力のテストである、上体起こしでは腹筋がいちばん多く使用される。他の種目と比較できないのが残念である。50〜60回/分はかなりよい値である。ディッピング、懸垂屈腕は腕の筋力である。各自の体重に抗する筋の持久性である。体重を考慮せねばならぬから、この数字だけではなんともいえない。検討中である。

(7)**ハーバードステップ** 敏捷性のテストである。

(8)**垂直跳** ハンドボール選手のなかではG・Kが最も優れている。それでもバレーボール選手の平均74cmにくらべると非常におとっている。足のバネを強くする練習はこんご考慮すべきことであろう。

(9)**握力・背筋力** 筋力は運動選手として普通である。

(10)**体格** 体格については、他の種目と比較し更めて検討したい。

以上いろいろと各検査項目について簡単な解説を試みたが、いちばん必要なことは選手各自が検査についてよく理解し協力してくれることである。不まじめな態度で行なわれた場合、その結果は全く無意味である。こんご屡々このような測定をおこなうつもりでいるが選手諸君の協力を望むや切である。

ハンドボールを身を以って体験していないので、独断的な点もあろう。御指摘、御指導にあずかりたい。

検査・測定データー

	項目＼種別			GK全員	B全員	FW全員	全員	ルーマニア	芝工大	日体大	東大生	日本代表バレーボール
	人員数			5	16	18	40					24
体格	体重	kg		64.0	65.0	63.0	64.2	77.3	64.4	63.8		
体格	身長	cm		171.1	168.9	170.2	169.8	178.0	168.0	168.7		179.6
体格	座高	cm		82.1	82.4	82.5	92.4	88.8	93.2	83.1		
体格	上肢長	cm	右	74.5	72.7	77.4	73.6	78.0	71.2	72.1		77.7
体格	上肢長	cm	左	74.6	73.1	77.9	73.8					
体格	胸囲	cm		89.1	89.4	88.4	88.9	97.4	80.2	90.8		
体格	伸展上腕囲	cm	右	26.7	26.1	25.4	25.8					
体格	伸展上腕囲	cm	左	25.9	25.8	24.6	25.3					
体格	屈曲上腕囲	cm	右	30.4	30.0	29.3	29.7					
体格	屈曲上腕囲	cm	左	28.9	29.2	28.1	28.6					
体格	手頸囲	cm	右	17.1	16.7	16.8	16.8					
体格	手頸囲	cm	左	16.5	16.5	16.6	16.5					
体格	下腿囲	cm	右	38.6	36.9	36.9	37.1					
体格	下腿囲	cm	左	37.1	37.0	37.8	36.9					
体格	手長	cm	右	19.4	18.9	19.3	19.1	17.9	16.5	16.7		
体格	手長	cm	左									
体格	皮下脂肪厚	mm		3.2		3.5						
体格	指極	cm		172.3	169.1	171.3	170.5	185.2	169.2	169.7		
筋力	背筋力	kg		162.0	149.4	151.8	152.1				130.0	
筋力	握力	kg	右									
筋力	握力	kg	左									
瞬発力	垂直跳	cm		62.8	54.3	56.6	56.5				52.0	73.7
敏捷性	サイドステップ	回			40.3	38.7					36.7	
持久力	懸垂屈腕	回		11.6	8.5	8.5	8.3					8.2
持久力	ディッピング	回		19.4	15.3	14.7	15.6					
持久力	上体おこし	回			53.1	48.8					35.0	
柔軟性	体前屈	cm		12.7	11.6	10.1	11.1				13.5	13.5
呼吸	肺活量	cc		4556	4784	4618	4677					5048
循環	血圧	mmHg	最大	125.4		116.3						
循環	血圧	mmHg	最小	69.6		61.4						
循環	ハーバード・ステップテスト	点			104.4	103.8					75.0	
	反応時間 1/1000秒	手	音	192,7	178.2	184.1	177.0					
	反応時間 1/1000秒	手	光	198.1	206.1	193.0	192.9					
	反応時間 1/1000秒	足	音	224.4	235.6	228.8	223.9					
	反応時間 1/1000秒	足	光	281.4	236.9	257.3	245.5					

うれしい女子実業団の誕生

=楽書帖= 第七回

鷲尾武治

▽……東京オリンピックからハンドボールが除外された。東京オリンピック組織委員会のとった行動は実に悪らつだった。七月十三日のJOC総会で高嶋理事長はついに爆弾抗議をぶっつけ、このことは新聞紙上で大々的に報道された。日本になじみの薄いカヌーや、自衛隊や警察官に限定された近代五種が加わったのはわからない。「十八種目がくずれたら腹を切る」と高石IOC委員は豪語していたが、それがくずれて二十種目になった。いまだに「腹を切った」ということは聞いていない。あんなシワだらけの腹を切ったって血も出ないだろう。第一に高石さんはハンドボールを知らなかったらしい。それにアテネIOCの総会で、東、高石両氏はハンドボール開催の投票に不賛成の票を投じたという。全くあきれてものがいえない。屋内体育館、選手村がまだ決まっていない。この調子だとオリンピックはうまくいかないだろう。「禍を転じて福となす」のことわざではないが、ハンドボールは除外されてよかったと思う。オリンピックばかりがスポーツじゃない。これからはどんどん海外遠征して1968年のオリンピックに備えた方がいい。陸上競技、バスケットボール、サッカー(アジア予選)のように「出ると負け」ではみつともないから……。1968年までにじっくりと実力をつけておく方が利口だ。

▽……ことしから女子実業団チームが生れた。ご存じのように大洋デパート(熊本)、大崎電気(東京)、レナウン(東京)の三チームで、全日本総合選手に参加した。ホットニュースといっていい。バレーボールやバスケットボールのようなはなやかさはないにしても、いちどに三チームも生れたのには頭が下がる。「ハンドボールってどんなスポーツだい」なんて聞く人がいる折から、まずはうれしい話である。三チームの監督はいずれも関東学生リーグで活躍した人たちである。大学を卒業してから、ハンドボールに首を突っ込む人が少ないのはどうしたことか。チームづくりに努力してもらいたいものである。クラブチームやOBチームよりも実業団(社会人)チームをつくってみる気はないのだろうか。名門といわれる早大、慶大、明大、関学の諸兄の奮起を望みたい。

▽……これは協会の人たちに要望しておく。全日本総合選手権の開催期日を十分考えることである。ことしは高校野球(甲子園)とぶつかってしまい、ハンドボールは全くカゲが薄かった。なんとかしてください。

(共同通信社記者)

時評

記録に対する関心を!

心がけよ収集と整理

時評というには、いささか古い話で恐縮だ。さる六月の関東学生リーグで芝浦工大が優勝したとき、関東学連はその優勝を通算十度目と発表した。これは明らかに九度目の間違いで、関東学連はトンだ黒星をつけた。年々責任者の変る学連であってみれば、こうしたミスも大目に見てやるべきことなのかもしれない。どうもハンドボール界というところは、記録に対して無頓着なのは困ったものである。こんどの場合も当の芝浦工大自身が気がつかないのが、まずおかしい。芝浦工大自身まるっきり知らないのかというと自校で編纂した昨年のルーマニア戦のプログラムや、ことしの海外遠征記念誌にはちゃんとした優勝記録が載っている。明らかに不注意である。記録への無関心と不整備は協会にもいえる。ある記者が古い全日本選手権の記録を調べに行ったら、協会になんのデーターもなかったといって残念がったり、驚いていたりしたことがあった。

最近の例でも、昨年(秋田)の全日本総合のプログラムに第一回大会いらいの参加チーム一覧というこの協会にしては上出来のデーターが掲載されていたが、誤植が多く、空白個所や誤まりもあった。ところが、その誤ったまんまをことし(倉敷)のプログラムに再録していたのには、いささかあきれてしまった。

つまり、昨年その一覧表が出たときだれもミスを指摘したり、注意さえもしなかったということになる。

戦前の記録は戦災で焼失したり霧散してしまって、個人所有に頼るほかはないそうである。しかし、少くとも戦後の主要大会の成績ぐらい協会の責任において保管すべきであり、そしてそれをいつでも実用出来るよう整理しておくべきだ。

協会の歴史もまもなく二十五年。ここらで、創設いらいの記録を中心とした歴史の集大成を試みるべきではなかろうか。

学連が優勝回数を平気で間違えるというのも本家の協会の記録への無関心の弊が影響していないとはいい切れまい。

(訂正) 先号当欄下段右から十一行目「全日本室内と全日本社会人室内の……」とあるのは「全日本学生室内と全日本社会人室内の」誤りでした。

× × ×

これまで御愛読いただいていた〝今月の問題〟に代って、今号から〝スポットライト〟欄を設けました。時期に合った話題、解説記事、人物紹介などがその内容です。第一回は人物紹介で、大崎電気の渡辺社長にライトをあててみました。

ハンドボールにつかれた男

渡辺 大崎電気 社長

▽―男性は金、地位、名声、ヒマがあるとよからぬ考えを起すものである。百人のうち九十九人がそうだろう。そのよからぬ考えをハンドボールに切り替え、チームを結成してみごと男子第2位。女子第3位に入賞させた立派な男性がいる。ご存じの大崎電気の渡辺社長である。おそらく本人はくすぐったいだろうが、悪い気持はしないだろう。とにかくこの渡辺さんは立派すぎる。こういったハンドボールファンがいることは球界にとってはうれしいことである。渡辺さんはハンドボールを全然知らなかったというからオドロキである。それがいつの間にかハンドボール狂となり、男子に次いで女子のチームを結成した。そればかりでなく、全国くまなく歩いて選手をスカウトしたというのだからオドロキ、プラスオドロキである。女子チームを結成するときは、自からグラウンドに出向いて選手を説得し、あるいは監督に交渉し選手を集めた。こんな熱心な人は初めてだろう。『やる以上はトコトンマデ。二年以内に男女とも日本一にしてみせるよ』となかなかの強気である。

▽…渡辺さんは高松宮さまと仲が良い。宮さまが地方へ出られるときは、いつもお伴をすることになっている。宮さまと協会理事長の高嶋さんとは親しい間柄である。ハンドボールの大会には宮さまもお出になる。渡辺さんもお伴する。こんなことから渡辺さん――ハンドボールが結びついた。最初のうちはハンドボールはつまらなかったそうだが、いつの間にかスピード感あふれるゲームが渡辺さんを魅了してしまった。ゴルフの腕前はシングル(?)とか。とにかくゴルフのうまいことは確かである。『最近のゴルフはギャンブル化している。一ホール何千円かのカケが横行しているのをみて、いっぺんにゴルフがいやになった』という。『バスケットボールはシュートした瞬間からプレヤーの動きが止まり、ラグビーはホイッスル(笛)が多くてゲームが中断する。野球は投手対打者だけの勝負だし、スピードがない。ハンドボールはスピードがあり、グラウンドが広く速攻の応しゅうで気を抜くヒマがない。アマスポーツはスピードがないとつまらない』。これが渡辺さんのハンドボール愛好論である。



▽―大崎電気のゲームは必ず顔を出す。倉敷の全日本総合では自らベンチにはいり、ハーフタイムでプレーヤがベンチにくるといろいろとコーチする。グラウンドにくると社長の肩書きをはずし、会社の先輩として面倒をみる。なかなかできないことである。『男子がもし優勝したら特別休暇(四日間)をやる約束したんだ。どうしても勝ってもらいたい』といっていた。芝浦工大との決勝戦で前半10分まで4―1と大崎がリードしたときは、手を打ってよろこんだ。すぐうしろに高嶋理事長(芝浦工大監督)がいるのも忘れて……、試合が終れば選手の宿舎まで自家用車を飛ばし、食事の心配までする。このへんは名マネージャーである。協会役員からも、ジャーナリストからも、選手からもなかなか評判がいい。『社長の道楽としては健全でいいですね』と水を向ければ『わたしはハンドボールが道楽です。ほかの遊びは不健康で全くつまらない。レナウンの社長にことばをかけたらレナウンもチームをつくった。レナウンの社長もきっとハンドボール狂になるだろう』とハンドボールのPRを忘れない。芝浦工大電気科の卒業生でハンドボール部出身なら無条件でスカウトする。高嶋理事長(芝浦工大監督)が鍛えた選手なら間違いないという。したがって渡辺社長―高嶋理事長は仲がいい。それがゲームになると親友の間柄を忘れてゲームに熱中する。秋田の国体で、だれをスカウトするかみものである。

▽…生れは兵庫県で先祖は平家の落ち武者ときいているが、いまはチャキチャキの江戸ッ子(?)である。会社の仕事は重役にまかせて、自分は「ハンドボール一途」に精を出している。いやはやまったくうらやましい話である。倉敷の全日本総合選手権には令夫人をはじめ愛児(愛人ではありません)を引き連れて応援、大会中にヒマをみて家族を四国見物に行かせるなど家庭サービスも忘れない。

渡辺さんとはそんな男性である。

〔ハンドボールのゆくところ、行かぬところのない渡辺社長、写真は全日本選手権の会場、倉敷青陵高グラウンドで…〕

第4回全日本学生選手権

芝浦工大堂々の4連勝

第4回高松宮杯全日本学生ハンドボール選手権大会は6月28日から5日間，兵庫県豊中市の服部緑地競技場に全国から大学27チーム（棄権1）が参加して行われ，相次ぐ熱戦の末，決勝は芝浦工大と中大の関東同士の対戦となり，芝浦工大が勝って，ここに第1回大会いらい堂々の四連勝した。……

関西3強、初日に姿消す

▽一回戦（六月二十八日）

桃山学院大20—4岐阜大
日体大12—5関大
芝浦工大24—3大阪学大
東北学院13—7立命館大
慶大14—10関学
神戸大（不戦勝）教大
法大17—10大阪府大
明治大21—4大阪歯大
熊本商大10—8順天堂大
東北大14—6大阪経大

中央大11（5—2 4—7 延長 2—0 0—0）9同志社大

〇…関西勢が、特に関大、同大、関学の関西リーグの上位三チームが、よい所なく敗退した。春のリーグ戦で初優勝しこの大会でも有力候補だった関大が、やや一方的に日体大に敗れたのも不甲斐なかったし関学が好調を伝えられていたとは云え関東二部の慶応に食われたものも大番狂せだった。慶応はこれで一昨年の大会の雪じょくを遂げたワケだが、関学は若い選手の不精彩に誤算が生じた。同大はチーム力で優りながら、前半拙攻が多く、延長に入ってから一点も奪えなかったのは、明らかに気力不足だ。地方勢では東北学院大と熊本商大の充実が目についた。

▽二回戦（六月二十九日）

早大17—5東北大
日体大18—9桃山学院大
立大9—4法大
中大8—3明大
芝浦工大9—2甲南大
慶大8—7京大
中京大14—9神戸大

〇…中京大が神大を破ったのは殊勲だ。中京大の実力は大会前一応マークされたが、昇り坂の神大を破るとは思わなかった。中京大は個人の優れた突進力で積極的に攻めたのがよかった。このほか、京大桃山学院大、甲南大が敗れて、この日で関西勢（十二校）は全部姿を消した。優勝候補の芝工大は軟かいグラウンドに災いされたか動きが鈍く、珍しくもその得点が一ケタに終った。同大を破って調子づく中大は、明大につけ入るスキを与えず、春のリーグ戦の不振をはね返す健闘ぶりだった。

中京大、あざやかな攻撃

▽準々決勝（六月三十日）

日体大11（6—7 5—1）8早大

〇…春のリーグ戦で日体大を破った早大はこの日も自信満々で気力のある攻防をみせたが、後半バックスに疲れが見えそこを巧く日体大につけ込まれた。日体大の出来もかんばしくなかったが、後半守備を固めて早大を1点に封じたので勝つことができた。

中大13（6—7 7—3）10立教大

〇…中大のFWは好調で、とくに後半はボールがよく回り、立大のデイフェンスをゆさぶり、前半の劣勢を一挙にばん回して勝った。

中京大12（5—5 7—5）7慶大

〇…慶大は学業の都合でFWを二人欠いたうえエースのRI諏訪が開始早々負傷して退場する不運に見舞はれた。後半バックスの木本、橋本らが攻撃陣に参加して得点を狙ったが、そのためデフェンスが乱れ、羽上田、近藤、伊藤の中京大FWにまんまと攻略された。慶大にとっては悔やまれる試合だったろうが、中京大の鋭い攻撃はあざやかなものがあった。

芝浦工大19（9—2 10—1）3熊本商大

〇…すべり出し熊本は1—1から2—1と好調に攻撃しこれはと思わせたが、その後は芝工大が実力をみせて一方的に押しまくった。しかし、芝工大はラフなシュートが多く、決してほめられる勝ちっぷりではなかった。

日体、弱気で押し切れず

▽準決勝（七月一日）

芝浦工大19（8—6 2—4 延長 5—0 4—1）11日体大

〇…事実上の優勝戦というだけあって接戦した。前半23分 8—3と芝工大が5点差をつけたときは、芝工大の楽勝を思わせたが、そのあと日体大は24分30秒、27分、28分10秒と連続ゲットして2点差に詰め前半を終った。

【日体】		【芝浦】
島崎	GK	谷
蓮井 沢田	FB	勝倉 久保
石原 田上 三友	HB	中村 斉藤 野村
小林 北山 林 栗山 青木	FW	佐藤 金山 森田 北村 越智
（交代）FW=川上	（主審 深江）	（交代）FW=間
49	ST	59
32	反則	49

後半、日体の好調が続いて、ペースは完全に日体のモノとなり1分、5分と得点をあげ8—8のタイ。6分20秒に芝工大は前半の8点目から18分目にしてようやく1点をあげ9—8。しかし、日体は10分青木、12分小林と好シュートを放って逆転に成功した。ところが、このあと日体大はノーサイドまで20分近くあるのに攻撃機をつかむとストーリングでボールをキープ、深江主審から攻撃勧告を受けるほどの徹底（?）した逃げ込み作戦をとった。この弱気はかえってタイム・アップが近くなるに

つれ、逃げ切りを意識しすぎてローリングに固さが加わった。28分パスミスを芝工大GK谷のカンのよい出足に拾われて逆襲に転じられた。このボールを29分、芝工大はゴール前FTからフローティングのCH斉藤に渡し、斉藤はあざやかに、ゴール左サイドギリギリに決めて10—10とし、延長戦に持ち込んだ。

延長にはいると芝工大FWは、まるでそれを待っていたかのように走り出し、あっという間に15—10と開き勝利を決定づけた。

中大、中京に逆転勝ち

中　大14（5—7 9—5）12中京大

○…中京大は、初めから多彩なFW攻撃で中大陣を割り前半7—5とリードした。しかし中大はこの劣勢にもあわてず後半じっくり攻めて7—7のタイとしてからは、うまいパス・ワークで中京大守備陣をくずし、試合運びに一日の長をみせて押し切った。しかし、これまで戦った中京大の試合ぶりは大いにたたえられてよかろう。

【中大】		【中京】
青砥	GK	北川
坂井	FB	吉田
福士		森川
佐藤	HB	葛島
川口		都築
峠野		高橋
田中	FW	近藤
平瀬	（主審村田）	馬場
大脇		羽上田
角谷		杉本
有留		伊藤精
03	ST	30
32	反則	24

▽三位決定戦（七月二日）

日体大22（15—10 7—9）19中京大

【日体】		【中京】
島崎	GK	北川
蓮井	FB	吉田
沢田		森川
石原	HB	葛島
田上		都築
三友		高橋
小林	FW	近藤
北山		馬場
林		羽上田
栗山		伊藤精
菁木		伊藤演
37	ST	41
24	反則	37

（交代）FW＝杉本　（FW）＝川上

▽決勝戦（七月二日）

芝浦工大12（5—5 7—5）10中央大

○…中大はパス・プレー、芝浦は個人技を生かしたパス・アンド・ラッシュ。巧対剛の試合だったが、中大の粘りのある攻撃は、これを振り放そうとする芝浦の攻撃にぴったりと食いついていた。前半25分5—3とリードされたがCF大脇の好技でハーフタイムには5—5と追いつくなど接戦となった。後半30秒、芝浦は幸運の14米投を越智が決めてから、ようやく調子を出しその後は順調に加点して20分には10—7と開いた。しかしこの間、中大は8分、13分、19分20秒、と三回の14米投を失敗した。もし、これが決まっていれば勝負はどう転んでいたか判らない。22分、四回目の14米投を中大が失敗したあと、23分芝浦は金山がミドル・シュートを決め11—7とし、懸命な反撃をみせる中大を押えて逃げ切った。中大は要所で落とした14米投の拙さに涙をのんだ。芝浦としては、会心の勝利ではなかったが、とも角、四連勝。第一回大会いらいこの大会で18試合無敗である。

S	得	反	【中大】		【芝浦】	S	得	反
0	0	0	青砥	GK	谷	0	0	0
0	0	6	坂井	FB	勝倉	0	0	9
0	0	7	福士		久保	0	0	13
0	0	2	佐藤	HB	中村	1	0	14
0	0	3	川口		斉藤	0	0	5
0	0	8	峠野		野村	0	0	7
4	1	1	田中	FW	佐藤	3	1	0
2	1	0	平瀬		金山	5	4	5
8	5	0	大脇		森田	2	1	1
5	2	0	上垣内		北村	6	2	2
2	1	1	有留		越智	5	3	3
0	0	0	杉本	交代	間	2	1	2
21	10	28		（主審・村田）		24	12	61

芝工大　秀れた体力活かす

光る中京大の活躍　力強さ欠いた関西勢

大会数日前から降り出した集中豪雨で国鉄、私鉄とも寸断し、熊本商大が大会当日ようやく到着するなど思わぬ事態を生じた。この豪雨でグラウンドもまったくのドロンコ、選手も大会役員も大変な苦労を重ねた。またこの大会ほどいろいろ波乱をよぶ試合が多かったこともめづらしい。大会前の予想では関西リーグ上位三校と関東リーグ上位校との激突に焦点がおかれた。いざ幕をあけてみると関学は慶大に、同大は中大に、そして関大は日体大にそれぞれ一回戦で敗れ去り3強豪が一日で姿を消すところとなった。ドロンコ試合とはいえせっかくの試合のヤマ場、チャンスを生かしきれなかったことも大きな敗因があったといえよう。一方慶大は今春教育大を破って関東リーグ一部へ昇格しその意気さかん。また日体大、中大は今春リーグでの低調なカラをつき破ろうとファイトに燃えていた。事実この三校は東海地区代表の中京大とともに今大会最も好調をしめし、その気力だけでもすさまじいものがあった。内容も呼吸のあった好プレーを展開し気力で押し切ってしまったといえる。相手に反撃を与えぬくらい、積極的な攻撃ぶりが勝利を握った大きな原因だろう。ともあれ慶大の準々決勝進出、中大が同大を破ってますます好調の波に乗り明大、立大、中京大を破つて決勝進出、芝浦工大をもう一歩というところまで追いこんだあたりみごとだった。本大会こそ我が手にと満を持した早大は日体大にうっちゃられ、日体大は準決勝で芝浦工大と対戦。タイムアップ寸前までリードを続けながら延長に持ち込まれ敗れた。関大、早大の強豪を破り準決勝へ進出しただけに惜しまれる一戦であった。四年連続優勝した芝浦工大は大型化した故か、往年のきびきびした早い好テンポの動きはなくなり、あまりに不調の波があり過ぎる感があった。それに調子もあまりよくなかっただけに連日苦しい試合を展開し、苦しい追われる立場を感じさせた。しかしそれをなんとか切りぬけ優勝へ結びつけた気力は賞められるだろう。芝浦工大はこれで四年連続優勝の偉業を成したわけである。

そのほか、熊本商科大学、桃山学院大学の健闘、予想以上のダークホースぶりを発揮した中京大学など印象を残ったチームとしてあげられる。全般的にいって今大会のように降雨、ドロンコの悪条件のなかで行なわれる試合というものの経験は選手にとっても尊い勉強になっただろう。明年は仙台でこの大会が開催されることになっており、大学女子の部も明年から設けられるはずである。　—中—

芝浦工大、8連勝の偉業

早大二位　関東学生春季リーグ戦

関東学生春季リーグ戦は五月十四日から六月十一日までの約一ケ月、東京の駒沢球技場に一部八校、二部九校（千葉大は全試合不参加）が参加して行われた。

▽一部第一日（五月十四日）

芝浦工大　20—8　立　大

日体大　16—10　教　大

明　大　12—8　中　大

早　大　15—9　法　大

▽第二日（五月二十日）

日体大　20—12　立　大

早　大　13—9　明　大

法　大　14—12　中　大

芝浦工大　13—7　教　大

▽第三日（五月二十一日）

中　大　16—7　教　大

日体大　15—11　法　大

芝浦工大　12—10　明　大

早　大　15—8　立　大

▽第四日（五月二十七日）

芝浦工大　19—8　法　大

立　大　13—3　中　大

明　大　15—13　日体大

早　大　15—8　教　大

▽第五日（五月二十八日）

芝浦工大　17—9　早　大

日体大　13—11　中　大

法　大　20—9　教　大

明　大　12—9　立　大

▽第六日（六月四日）

早　大　15—13　日体大

芝浦工大　14—7　中　大

明　大　8—5　教　大

立　大　14—11　法　大

▽第七日（六月十一日）

立　大22（延長）17　教　大

明　大　15—13　法　大

早　大　13—9　中　大

芝浦工大　13—9　日体大

【順位】①芝浦工大7戦7勝　②早大6勝1敗　③明大5勝2敗　④日体大4勝3敗　⑤立大3勝4敗　⑥法大2勝5敗　⑦中大1勝6敗　⑧教大7戦7敗

（二部）①慶大8戦8勝　②東京学芸大7勝1敗　③東大6勝2敗　④防大5勝3敗　⑤順天堂大3勝4敗　⑥茨城大3勝4敗　⑦千葉工大2勝6敗　⑧武蔵工大2勝6敗　⑨千葉大　棄権（8敗）

○…一部は芝浦工大がその実力低下をいわれながらも、北村、越智、金山、佐藤らのFWがスケールの大きい攻撃をみせて苦しい試合はあった。ともかくも星を落とさず8シーズン連続、9度目の優勝をとげた。

その安定した試合ぶり、リードされてもペースをくずさず、勝機に敏な攻防は他校のそれをしのいでいた。

二位となった早大は一昨年秋三校同率となったほか、最近では関東リーグで単独二位などという上位は昭和二十八年秋優勝していらいのことであり、その活躍はめざましかった。勝利の原動力はRW雪谷の秀れた個人技にあり、対芝工大戦では早大のシュート32本中23本を放ち全得点（9）をあげるほどで、森岡をFWに回してアシストとした策も当ったようだ。

三位の明大はRI正岡とCF浅野の出来が妙にチグハグとなり、正岡がよい日は浅野が不調といった具合で芝浦、早大に食いつきながらも勝点をあげ得なかった。日体大の四位は、まさに昔日の面影なしで日体が四位になったのは昭和二十六年いらいの事である。攻守ともにどこといってアナはないのだが、チームにすごみがないのが欠点だ。中大も期待はずれで、1勝しかあげられなかったのはちょっとひどすぎた。

立大、法大は暴れん坊らしい試合ぶりで勝率こそ悪いが、試合内



関東学生春季リーグ芝浦工大対日体大戦から，日体大ゴール前の混戦

容は上の部。ムラ気をなくしてもう一歩安定さを増せばさらに好チームとなろう。

名門教大は最終戦に立大と14－14の熱戦を演じた以外はまるっきり。深美、及川の卒業のアナがこれほどまで響くとは思わなかった。巻士重来を期待しておこう。

○…二部では教大に代って秋から一部にもどる慶大が若手FWの活躍とFB木本、CH橋本の巧技で危な気なく全勝した。その他では学芸大が着実な進境を示したのに引きかえ、かっての一部校東大、防大などがそろって不出来。順天堂大の負越しもいただけない。初参加の千葉工大は精いっぱいの健闘で好感を持てる試合ぶりだった。



芝浦工大対日体大戦から――芝工大金山のシュート、カットするは日体大バックス

関大、初の優勝飾る ＜同大二位＞

関学は三位に　関西学生春季リーグ戦

関西学生春季リーグ戦は五月四日から五月二十八日まで西宮球技場に一部八校、二部七校が参加して行われた。

▽一部第一日（五月四日）
同　大 24－6 大阪府立大
関　学 17－0 立命大
関　大 16－8 京　大
甲南大 8－7 神戸大

▽第二日（五月七日）
関　学 19－6 大府大
同　大 9－4 立命大
関　大 13－11 甲南大
神　大 11－10 京　大

▽第三日（五月十三日）
関　大 18－4 立命大
同　大 17－9 甲南大
神　大 11－8 大府大
関　学 15－10 京　大

▽第四日（五月二十日）
関　学 11－6 甲南大
神　大 17－6 立命大
同　大 24－13 京　大
関　大 20－7 大府大

▽第五日（五月二十一日）
甲南大 17－6 立命大
大府大 13－11 京　大
神　大 11－9 関　学
同　大 11－10 関　大

▽第六日（五月二十七日）
京　大 11－8 立命大
甲南大 8－6 大府大
関　大 15（延長引分）15 神大
同　大 18－16 関　学

▽第七日（五月二十八日）
甲南大 9－8 京　大
大府大 13－4 立命大
関　大 16－13 神　大
関　学 15－14 同　大

【順位】①関大6勝1敗 ②同大5勝1敗1引分 ③関学5勝2敗 ④神大4勝2敗1引分 ⑤甲南大4勝3敗 ⑥大府大2勝5敗 ⑦京大1勝6敗 ⑧立命大8敗

（二部順位）①桃山学院大6戦6勝 ②大阪市大4勝2敗 ③大阪経済大3勝3敗 ③大阪歯科大3勝3敗 ⑥大阪学芸大2勝4敗 ⑤大阪工大2勝4敗 ⑦大阪大1勝5敗

○…第一日からダークホース神大が甲南大に敗れるなど混乱の幕開きだったが、一部校の実力が伯仲して見応えのある接戦の連続となった。第四日までは関大、同大、関学の3強がこれまで同様に無傷で勝ち進んできたが、第五日関学が神大に、関大が同大と大熱戦のすえ敗れ球趣は一段と盛り上がった。過去二十四回優勝、8連勝を狙う関学は、今春レギュラーの大半を卒業で失い、多くの新人を登用した。前哨の西日本学生大会でみごと優勝を飾っておりさすがはと思わせたが、神大は荘林、西本を中心にしたFWがよく攻めて、前半9－5と優勢に立ったのが大きく、創部いらい初めて関学から勝利を得た。関学は翌日、関大に敗れて優勝争いから一歩退いたが、激しい星のつぶし合いから、神大が同大を引分けに引きずり込んだために、最終日の二試合に優勝がかけられるという激戦になった。

しかし、エース高村を有して意欲十分な関大が対神大戦で前半の劣勢を後半に逆転、初優勝を決めた。優勝した関大は高村、寺田、池上、それに新人の近藤（中京商）がよく働きFWで他校に差をつけたのが勝因だった。同大も関大に劣らぬ布陣で、しかも関大に勝っているだけに惜しまれる。関学はやはり、卒業の痛手が響いたが最終戦で同大を破ったあたりは名門の名に恥じず、秋には再び戦力を整えて優勝候補の最右翼に列するだろう。

神大は緒戦に敗れたが後半よくやった。今季のリーグ戦をおもしろくしたのは、終盤の神大の奮闘ぶりが第一因であり、敢斗賞モノである。

B級では甲南大がまとまりをみせ4勝したが一部での勝越しはおそらく初めてだろう。京大は攻守に中心を欠いてチーム力が一段落ちたがカムバックを期待しておく。府大はまずあのていどが順当だが、攻守に粘りが出て来ており、努力次第では秋にはおもしろい存在となろう。立命館大はついにどん底といった感じで七試合で32点とはおそまつすぎた。二部転落もやむを得まい。

○…二部では予想通り桃山学院大が文句なしの試合運びで余勢をかって宿願の一部入りまで果した。一部でも相当よいところまで食いこむのではなかろうか。その他はドングリの背くらべで似たりよったりの攻防をみせたにとどまり、話題にとぼしかった。

東海は中京大圧倒勝ち

国立七大学 神大、京大を破り優勝

東海学生春季リーグ戦は五月、二十九、三十の両日、一部五校（名市大棄権）、二部五校（静岡大棄権）が参加して、名古屋の中京大グラウンドで行われた。

▽一部

中京大 26―2 名工大
名　大 17―7 岐阜大
名工大 10―7 岐阜大
中京大 19―6 名　大
名　大 14―6 名工大
中京大 23―5 岐阜大

【一部順位】①中京大4戦4勝 ②名大3勝1敗 ③名工大2勝2敗 ④岐阜大1勝3敗 ⑤静岡大（棄権不参加）4敗

▽二　部

愛知学芸大 19―9 三重大
滋賀大 19―7 県立三重大
滋賀大 19―8 三重大
愛知学芸大 17―7 県立三重大
滋賀大 13―10 愛知学芸大
三重大 14―8 県立三重大

【二部順位】①滋賀大4戦4勝 ②愛知学芸大3勝1敗 ③三重大2勝2敗 ④県立三重大1勝3敗 ⑤名古屋市立大（棄権不参加）4敗

○…一部では中京大が文句なしの優勝をとげた。昨年の強力FWが不動で、バックスに好新人が加わって、攻守のバランスがとれた。そのうえ、慎重な試合運びをみせたので、他チームは全く手の施しようがなかった。

その他ではやはりまとまりという点で名大が他をしのいでいた。今期から一部に上がった岐阜大は精いっぱいの健斗だったが、名工大には試合の展開力で一歩をゆずった。二部では滋賀大が愛知学芸大を破るほどの躍進ぶりで首位となった。

第五回国立七大学選手権（リーグ戦）は八月四、五、六の三日間、札幌市の北大グラウンドで行なわれた。

京　大 17―8 北　大
神　大 16―9 東北大
東　大 14―10 阪　大
名　大 12―4 北　大
京　大 11―7 東北大
神　大 22―5 東　大
名　大 11―4 阪　大
京　大 16―4 阪　大
東北大 9―8 名　大
神　大 16―4 北　大
京　大 12―7 東　大
東北大 19―5 阪　大
神　大 18―7 名　大
東　大 11―5 北　大
名　大 9―4 東　大
東北大 13―6 北　大
神　大 17―7 阪　大
京　大 13―11 名　大
東　大 7―6 東北大
北　大 11―8 阪　大
神　大 14―13 京　大

【順位】①神大6戦6勝 ②京大5勝1敗 ③東北大3勝3敗（得点63）④名大3勝3敗（得点58）⑤東大3勝3敗（得点48）⑥北大1勝5敗 ⑦阪大6敗

○…関西一部の神大の優勝は順当のところで、第一回大会いらい、2度目の優勝を飾った。4連勝を狙う京大との最終戦は優勝を決めるにふさわしい好ゲームとなり、前半は神大、後半は京大が、それぞれリードしたが、神大は前半の優位も手伝って、追われながらも余裕があり逃げ切った。

早大、関学を破る

恒例の東西大学定期戦

第十六回関学対早大定期戦は六月二十二日、豊中市の服部競技場で行われた。伝統の一戦らしい力のこもった試合となったが、早大は春の関東リーグですっかり自信をつけ、積極的な攻撃をみせて、昨年に続き連勝、対戦成績は早大の5勝11敗となった。

早　大 10（5―3、5―5）8 関　学

▽OB戦

関学OB 17―2 早大OB

※

第十四回立命館大対明大定期戦は、六月二十六日、豊中市の服部競技場で行なわれた。立命館大はすべり出し好調だったが次第に体力の差が現われ、後半は明大の一方的な試合となった。これで対戦成績は明大の12勝2敗。

明　大 13（4―3、9―0）3 立命館大

※

第十四回京大対慶大定期戦は六月十七日、横浜市の慶応競技場で行なわれた。前半は互角だったが、後半慶大FWはよく走り、三年ぶりで勝利を握った。対戦成績は慶大の10勝3敗1引分。

慶　大 21（9―7、12―5）12 京　大

▽OB戦

慶大OB 13―7 京大OB

※

第十一回同志社大対立教大定期戦は、七月十六日豊中市の服部競技場でなわれた。互いに持味を生かした見応えのあるFW戦となったが同大が前半の1点差をまもり切って辛勝。対戦成績は同大の7勝4敗となった。

同　大 18（9―8、9―9）17 立教大

▽OB戦

同大OB 9―8 立教大OB

※

第八回甲南大対慶大定期戦は六月十八日、横浜市の慶応競技場で行なわれた。慶応が攻守に鋭い動きをみせて甲南を降し8連勝した。

慶　大 15（8―3、7―3）6 甲南大

▽新人戦

慶大新人 15―11 甲南大新人

※

第七回名大対大阪大定期戦は六月十日、名古屋市の東山名大グランドで行なわれ延長のすえ、名大が辛勝した。

名　大 9（4―4、3―3、延長 1―0、1―1）8 阪　大

対戦成績は名大の5勝2敗。

国体展望

勝負の厳しさ 実力で示せ

第十六回国民体育大会ハンドボール競技は十月八日から十三日の六日間、秋田県湯沢市（高校男女）、大曲市（一般男女）で挙行される。出場チームは、各県、各ブロック予選を経て、高校、一般を含め57チーム、人員約七百数十名の参加である。郷土の名誉にかけて華々しくゲームが展開されるが、その種目別に予想をみてみよう。

実力抜群の中京商

高校男子

Bゾーンでは、昨年国体第二位の兵庫工がシードされたが、本年のチームは昨年に比べ少し見劣りがする。函館工と氷見の顔合わせは1点を争うほどの激突になること必至。下関幡生工は昨年四位の岩国工を降して進出したが、試合巧者の墨田川との作戦はみものだ。

Aゾーンでは、インターハイ優勝の中京商の実力が抜群である。ここで宿敵の意気に燃える桐生工の活躍が期待される。盛岡第一も一応チームとしてまとまっているから準優勝戦で中京と顔を合せるであろう。

さて優勝戦だが、函館工、氷見下関幡生工、墨田川の実力はほとんど甲乙はない。その日の調子と気力で、最後に残ったいずれか一校が中京商と対決することになるであろう。

静岡―茨城の決戦か

高校女子

Bゾーンでは、まず水海道二高をあげねばなるまい。しかし、あまり調子がよくないときく。同じゾーンで名門涌谷と本年頭角を現わした花巻の活躍が期待される。

Aゾーンでは、静岡城北が断然光っている。静岡はインターハイのとき優勝の半田と対戦し熱戦のすえ涙をのんだが、今回その宿敵をブロック予選で蹴落して進出した。この意気と力は高く評価されてよい。昨年大いに活躍した尼ケ崎や、地元秋田和洋の奮斗を期待したい。順当にいけば、静岡城北と水海道二高の優勝争いになる公算が大きい。

実力接近で波乱必至

一般男子

二十五チームの参加はハンドボールの圧巻だ。活躍を期待できるチームは、大阪ク、京都ク、清水商ク、福岡ク、大崎電気、氷見ク、全神奈川、神戸ストーク、熊本ク、桐生ク、桜丘会にしぼられるようだ。更に準優勝に勝ち残るチームとしては、大阪ク、大崎電気、神戸ストーク、桜丘会の四チームの下馬評が高い。老巧大阪クと新鋭大崎電気の一戦は、遅攻を主とし勝負強い大阪クに対し、速攻を生命とする大崎がどのような秘策をもってあたるか興味がある。優勝戦の本命は桜丘会と大崎電気のようだが、互いに手の内を知り尽している間柄であり、力も伯仲だ。いずれが勝ってもその2点の差はつくまい。このようにいうとすじ書は整っているようだが、試合はやってみないとわからない。ことに最近高校OB、大学OBの若手が主軸となり実力は非常に接近している。どこに伏兵がいないとも限らない。勝負の世界の厳しさを実力で示してみてほしいものだ。

愛知紡追う新鋭大洋

一般女子

全日本総合大会でハンドボール界をアッといわせたのはレナウン工業と大洋デパートのチームの出現であった。この大洋デパートはインターハイで優勝の経験のある熊本市立高OG熊本商大OGを中心に編成していた強力チームだ。二回戦にあたる名門涌谷クも苦戦はまぬかれまい。

Aゾーンでは人も知る愛知紡績がシードされたが、日体大が非常に元気であり、チームとしてもまとまりをみせているから好試合になるだろう。その他試合巧者の大阪クと全岡山がダークホースのようだ。全秋田の活躍も期待したいが、結局は愛知紡績と大洋デパートの優勝争になりそうだ。まず愛知紡績の多彩な攻撃が、当たりの強い大洋デパートのデフェンスをどう切り抜けるか。又大洋デパートが、常時四人攻撃ながら、愛知紡績の若干あまいデフェンスをどうゆさぶるかによって勝負が決まる。（的場記）

国体ハンドボール組合せ

高校男子の部（湯沢市）

A
- 中京商高（愛知）
- 桐生工高（群馬）
- 小倉工高（福岡）
- 盛岡一高（岩手）
- 洛星高（京都）
- 湯沢高（秋田）

B
- 下関幡生工（山口）
- 新居浜工（愛媛）
- 墨田川高（東京）
- 函館工高（北海道）
- 氷見高（富山）
- 兵庫工高（兵庫）

高校女子の部（湯沢市）

A
- 静岡城北高（静岡）
- 室蘭清水丘（北海道）
- 県立尼崎高（兵庫）
- 新居浜東高（愛媛）
- 秋田和洋女（秋田）

B
- 徳山高（山口）
- 水海道二高（茨城）
- 富山女高（富山）
- 花巻南高（岩手）
- 菊地農蚕高（熊本）

一般男子の部（大曲市）

A
- 桜丘会（愛知）
- 全広島（広島）
- 小松クラブ（石川）
- 函館サンダー（北海道）
- 桐生クラブ（群馬）
- 山口クラブ（山口）
- 熊本クラブ（熊本）
- 全岩手（岩手）
- 神戸ストーク（兵庫）
- 住化菊本（愛媛）
- 全神奈川（神奈川）
- 氷見クラブ（富山）
- 青森クラブ（青森）

B
- 大崎電気（東京）
- 鵜森クラブ（三重）
- 全岡山（岡山）
- 福岡クラブ（福岡）
- 全長野（長野）
- 清商クラブ（静岡）
- 大曲クラブ（秋田）
- 京都クラブ（京都）
- 全埼玉（埼玉）
- 高知クラブ（高知）
- 北陵会（宮城）
- 大阪クラブ（大阪）

一般女子の部（大曲市）

A
- 愛知紡績（愛知）
- 高岡高OG（高知）
- 富山女OG（富山）
- 全秋田（秋田）
- 日本体育大（東京）

B
- 大洋デパート（[illegible]）
- 涌谷クラブ（宮城）
- 全岡山（岡山）
- 函館フレッブ・ク（北海道）
- 大阪クラブ（大阪）

学生界秋の展望

激戦の東西リーグ

関東は今春のリーグで八連勝した芝浦工大にいどむ大学はどこかに焦点が集められる。芝浦工大は春のような荒けずりがなくなり、RW佐藤、FC北村を軸とした早いパスプレーとシュート力は、見ごたえがある。バックスも勝倉を中心としたフォロの早いデフェンスも堅い。しかし全日本学生でこの芝浦工大をもう一歩のところまで追いこんだ日体大と中大、それに全日本学生で日体大に最後にうっちゃられた早大あたりが芝浦工大の連勝を阻むもっとも有力なチームとしてあげられる。ただ日体大はシーズン中旬韓国へ遠征するので二軍をもってその間対戦せねばならぬだけに苦戦となろう。しかし青木(義)、栗山、小林とそろえたFWはそのスピードを、誇るだけのものを持っている。デフェンスにもろい点があったが最近呼吸もあって来たので楽しみにしたい。中大は調子の良し悪しがはげしく波のあるチーム。大脇をFCとしたFWはホロが早く、調子が出たときは爆発的威力を持つチームだ。春季二位の早大は今夏ジックリと練習を積み恵谷、森岡、長沢のFWはセットプレーがうまくなった。機をみて放つ長短シュートは実に鋭くなってきた。春のプレー以上に磨きがかかり、久保、山田を持つGK陣も心強く、秋季リーグにどんな試合ぶりを見せるかが楽しみ。この四者に春季リーグ三位の明大であるが、前記四者に決してヒケをとらぬだろう。最後のもうひと押しというところでいつも息がきれるだけに、それさえなくなればこの明大を加えた五者の優勝争いとなろう。これを追う立教は昨年からほとんどメンバーも変らず今春季リーグで法政、中大、教大を破り自信を深めただけに秋季リーグは縦横にあばれまくるだろう。法政はいままで8番吉村の出来いかんで勝敗の鍵を握っていた。そのカラを破れば思わぬ試合ぶりをするだろうし上位進出にも期待出来そうだ。今春一部へ返り咲いた慶大は全日本学生において関学を破り、全日本総合でも好調で今夏は二度の強化合宿、まさに調子上々なのでダークホースぶりをいかんなく発揮するであろう。

二部では教育大、学芸大、防衛大の首位争いとなろう。教育大は少し低調気味だけに一層の奮起を望みたいし、学芸大、防衛大、東大を加えエキサイトした試合が展開されるだろう。

競り合う関西三強

関西では、今春最終日までもつれにもつれた優勝争いが再現されそうな形勢である。

本来なら常勝関学の戦力低下の虚をついて関大、同大あたりが、この機に確固とした足固めをするところだが、どうも今春宿願の初優勝を遂げた関大にしても、同大にしても、もろさをかくしきれない。

それが期待されながらも、全日本学生や全日本総合での早期敗退となって現われるのである。春、三位に落ちた関学はその後の猛練習によって、見違えるようなたくましさを備えてきた。殊に秋のリーグ戦では十四年間優勝以外の記録を残していないという〃伝統〃を忘れてはならない。

春の順位関大、同大、関学の逆の順が、秋の優勝予想だという声も決して裏付けのない話ではない。

また、見落としてならないのは神大である。春は緒戦でつまづき終盤での健闘も空しく四位に終ったが、当然前記三校の角逐に加わるだけの実力はあり、おもしろい存在になろう。三強にとっては対神大戦の星いかんが優勝争いに大きく響いてくる。それだけ神大の存在はクローズアップされよう。二部に上がったばかりの桃山学院大の戦力も侮れない。全日本総合では早大と延長の熱戦を演じたほどだし、思わぬ大金星をあげて、波乱の〃目〃になる可能性は十分である。甲南大、京大、府大は優勝を狙う実力はないにしてもそれぞれ特徴を持ったチームだけに調子にのれば意外の躍進をとげるのではないか。

王座は関東側有利?

ところで、学生界秋のメインエベント第四回全日本学生王座だが、前述のように東西両リーグとも情勢こんとんで、どんな顔合わせになるか見当がつかない。ただ全日本学生などの試合ぶりからすると、どのようなカードになっても、今年は関東勢の方が有利のようだ。ホームコートという利も手伝えばなおさらである。昨年は関学があざやかに芝浦工大の連勝記録にストップをかけ、記憶すべき大会となったが、ことしも前年におとらぬ好ゲームの展開を今から待望しておこう。

王座戦の前に東日本、西日本それぞれの優勝大会(予選)が行われるが、西日本は関西リーグの覇者が山口大あるいは熊本商大を問題としないだろう。そう。注目されるのは東日本の中京大(東海)の存在だ。東海ナンバーワンから今では全日本学生のトップレベルに成長したこのチームが、果して関東リーグの覇者を向こうに回してどんなファイトを見せるか、この秋の一つの〃関心事〃である。

楽しみな新人の成長

このほか関東に、以前から話のあった日大の参加が確実になったというのもニュースである。近年各種スポーツにめざましい躍進をげている日大の参加は、関東学連に限らず学生界のためにも歓迎されるところであり、その試合ぶりが大いに期待されよう。また、今春、東西両リーグは非常に多くの新人が登場している。しかも、その多くは、チームの重要なポジションにあり、将来の学生界の中心選手として嘱望される素質を持った選手ばかりであった。これら新人が、夏の激しいトレーニングを経て、どのように成長したかを見るのは非常に楽しみであり、対象的に今シーズンを最後に学窓を出る四年生選手が、悔いを残さぬ好プレーを随所に発揮されて、一段の話題を呈されるよう望んでやまない。

【駒沢球治郎】

実業団球界の話題

実業団ハンドボール界の活動もようやく軌道にのった。

今秋第二回目の全日本実業団選手権が東京で開かれることになった。昨年広島で行なった第一回大会にはエントリーは八チームあったが、実際には六チーム（男子のみ）が参加しただけで、内容的には決して満足できるものではなかった。

しかし、これまで極く一部の地区で一チームか二チームしか存在しなかった実業団球界がともかく、選手権大会を開くまでにたどりついたのは、球界のために大いに喜ばしいことであった。

群を抜く大崎電気

さてこの実業団選手権大会の開催を契機にして、各地で続々と新チーム結成のニュースが伝わってくるのはたのもしい。今夏の全日本総合選手権には男子二、女子四チームが参加した。

実力的には男子では芝浦工大の優秀選手を計画的に入社させて名乗りをあげた大崎電気（東京）が一頭地を抜く存在。すでに結成第一年目の昨年は、全日本実業団優勝、全日本総合二位全日本総合室内二位、国体三位と全国でもトップクラスの実力をみせ、今夏も全日本総合で準優勝している。メンバーのうち五人が世界選手権の日本代表になっているのでもわかる通り、そのスタッフからいってこの成績は順当。しかも社長自ら優秀選手のスカウトに乗り出すなど意欲的な補強ぶりをみせているので、当分実業団ではこのチームに比肩できるチームは生まれまい。

今夏の全日本総合に出場した住友化学菊本（愛媛）は、この大会に四年連続出場で、国体にも何度か出場している。実業団球界では三菱レーヨン（広島）と並んで最も古顔のチームである。両チームとも地区大会では優秀な成績をつねに残しており、年々チーム力を上げて全国的にみても相当よいところまで行けるようになった。殊に三菱レーヨンは第一回の全日本実業団で大崎電気と優勝を争い、9対8と惜しくも敗れはしたものの、その実力は高く評価された。

このほか中国地方には日新製鋼（広島）、淀川製鋼（広島）、呉造船（広島）、東洋工業（広島）、戸田工業（広島）などがあり、今春の西日本一般男子では呉造船がベスト・4に勝残るなど、その試合ぶりは注目されるものがある。

盛んな東海地方

中国地方と並んで実業団チームが相次いで生まれているのが東海地方である。

すでに昨年、新三菱重工（愛知）と東洋レーヨン名古屋（愛知）の間で「中部日本実業団選手権」が争われた。このほか東芝三重（三重）、本田技研（三重）、日本化成ゴム（三重）、さらには美濃繊維（岐阜）のチームがある。なかでも新三菱重工は地元の高校界から優秀選手をシーズンごとに幾人か補強し、成長の期待出来るチームを編成している。

この地方は周知のように愛知県に強チームが多い。一般男子の部でも相当高いレベルの試合が行なわれているだけに、実業団チームにとっては試合相手、練習相手に恵れている。昨年は二チームだけだった「中部日本実業団選手権」（十一月末）もことしは、参加チームも増えることだろうし初出場で岐阜の七人制選手権を握った美濃繊維など、楽しみなチームも多い。上野町公民館（愛知）と云う異色チームもある。

東京、大阪に新チーム出現を期待

こうした地方における実業団チームの活動に引きかえ東京、大阪にその動きが少く僅かに表面で活動しているのは大崎電気だけというのは寂しい。大阪では丸紅飯田をはじめ二、三のチームがその準備を進めていると聞く。やはり東京、大阪に実業団球界の運営をリードして行く好チームの出現がない限り球界の前途は楽観できない。

このほか一、二年前、函館ドック（北海道）、宇部曹達工業（山口）といったチームの名が登録されていた。宇部曹達はたしか全日本総合選手権にも出場しているハズだが、この両チームともその後の消息はあまり聞かない。また、昨年、東京で開かれた全日本総合室内に出場した桐生（群馬）のチームは、たしか岸スプリングというユニホームをつけていたと記憶する。これなどやはり会社の同好者組織の実業団チームだろう。

また同好者組織といえば九州で八幡製鉄（福岡）にその動きがあり、福岡県ではこのほか岡野パルプがすでにその活動を始めている。

強者出そろう女子界

ところで男子の実業団球界は、大崎電気を除いては、全国的なトップチームとはいえないが、女子の方は数こそ少いが逆に全国の最上位を行くチームが集っている。まず実業団ハンドボールの草分けともいうべき愛知紡績（愛知）だが、このチームは説明の要がないほどその球歴は輝やかしい。なかでも全日本総合五連勝の偉業は、おそらく今後とも破るチームが出てこないのではないか。しかも六連勝、七連勝を狙って補強、練習など万全の構えだけになおさらである。このチームに対抗すべく今シーズン相次いで生まれたのが大洋デパート（熊本）、大崎電気（東京）である。前者は高校界の強豪熊本市高と、全日本総合室内に2連勝した熊本商大の両チームの卒業生から成り、後者は関東の名門水海道二高、栃木女高のOGを中心としたチームである。すでに三者の競り合いは今夏の全日本総合で激しいものがあり、愛知紡、大洋、大崎の順となったが、今後は機あるごとに白熱した攻防戦を展開しよう。

レナウン（東京＝本誌話題のチーム参照）も意欲十分であり女子実業団球界は男子に先んじて、球界最高峰を行く強者がそろうこととなった。

【黒尾　武】

第12回全国高校選手権大会

男子中京商業、3連勝を飾る

――第12回全国高校選手権は7月30日から5日間――
――富山県氷見市の氷見高グラウンドで男女合わせ――
――て72試合が行われた――

女子は半田初優勝、熊本の3連勝成らず

男子

前年度優勝校中京商業（愛知）など39校が参加

▽一回戦

桐生工（群馬）13（6―4、7―4）8 高松一高（香川）
熊本市商（熊本）14（6―9、8―3）12 鎌倉学園（神奈川）
博多工（福岡）13（5―4、8―4）8 土佐高（高知）
岐阜商（岐阜）17（11―1、6―2）3 福井商（福井）
岩国工（山口）11（5―3、6―3）6 新居浜工（愛媛）
函館工（北海道）11（5―5、6―4）9 兵庫工（兵庫）
天城高（岡山）6（2―1、4―0）1 烏山高（栃木）

○…熊本×鎌倉、函館工×兵庫工の二試合がよかった。とくにダークホースといわれた兵庫工を函館工が破った一戦は好試合だった。兵庫のシュートはほとんど両ウイングが打ち、センタースリーの技巧的な動きを生かした。一方の函館は直進的な巧法を常用し、技と力の対戦といった印象だった。函館は兵庫にリードを許しながらも大きく放されず、後半17分逆転に成功してからは余裕が出た。一度はタイとされたがすぐ加点して、逆に試合の主導権を握り押し切った。兵庫は力を出し切れず敗れたようだ。鎌倉×熊本は鎌倉の楽勝を思わせるすべり出しだったが、熊本は徐々に追いあげて後半18分初めてリード。点差が開いても熊本は攻守に落ち着き、その自信が最後にモノをいった。

▽二回戦

修道高（広島）11（4―3、7―4）7 小杉高（富山）
金沢商（石川）10（5―4、5―0）4 青森高（青森）
塩山高（山梨）11（7―3、4―4）7 福島高（福島）
墨田川高（東京）10（4―4、6―2）6 洛星高（京都）
氷見高（富山）10（4―4、6―4）8 土浦工（茨城）
熊本市商（熊本）9（4―3、5―4）7 和歌山工（和歌山）
清水商（静岡）13（7―4、6―5）9 函館工（北海道）
中京商（愛知）20（9―1、12―12）13 桐生工（群馬）
高島高（滋賀）13（8―6、5―5）11 仙台二高（宮城）
鹿児島工（鹿児島）12（7―3、5―4）7 大石田高（山形）
北佐久農（長野）11（4―2、7―0）2 大曲農高（秋田）
盛岡一高（岩手）9（3―1、6―3）4 天城高（岡山）
四日市工（三重）12（5―1、7―1）2 大宮高（埼玉）
岐阜商（岐阜）13（7―7、4―4、2―1）12 添上高（奈良）
寝屋川高（大阪）10（7―3、3―3）6 博多工（福岡）
桜台高（愛知）17（10―4、7―1）5 岩国工（山口）

○…三年連続優勝を狙う中京商は前半風上の利もあって大差をつけ、後半風下に回ってもFWの速攻は少しもおとろえず着々加点、17分には20―9とリードした。しかし桐生もセンタースリーを中心に最後まで健闘し、後半はタイに持込む闘志を見せたのは賞されよう。そのほか氷見×土浦、清水×函館、高島×仙台などの試合が、互角の実力同士の対戦となって接戦を演じた。前日兵庫を破った函館は、この日も清水によく食いつき好試合となった。しかし清水は攻守に安定した力をみせ、函館の調子の出そろわぬ序盤にソツのない攻撃で4―0として機先を制したのが最後まで余裕を持たせることになった。岐阜×添上は初の延長となったが、岐阜は延長後に得た14m投の1点が効いて勝進んだ。なお盛岡一高はうま味のあるプレーをみせて東北唯一の勝残りとなり気をはいた。

▽三回戦

中京商（愛知）11（5―3、6―2）5 修道高（広島）
熊本市商（熊本）11（6―5、5―3）8 塩山高（山梨）
盛岡一高（岩手）16（6―5、10―4）9 高島高（滋賀）
清水商（静岡）10（3―2、7―1）3 金沢商（石川）
氷見高（富山）12（5―4、7―7）11 墨田川高（東京）
鹿児島工（鹿児島）11（5―7、4―2、2―1）10 岐阜商（岐阜）
桜台高（愛知）8（4―2、4―2）4 北佐久農（長野）
寝屋川高（大阪）7（4―3、3―2）5 四日市工（三重）

○…中京商、熊本市商、桜台高が関東強さをみせた。地元氷見高が墨田川高を破ったのは殊勲だ。氷見は気力において墨田川を上回った。墨田川は都会チームらしく洗練されたプレーで、ポイントゲッターのLW北井をうまく生かしていた。ここ一発という場面では氷見に力強さが感じられ、氷見が11―10とリードされたが、残り1分間に2点を入れ逆転したのもそれだった。熊本×塩山はバックスにややラフ・プレーが多かった難を除けば、気合のこもった好試合だった。塩山は後半8分7―7としたあと得点が止まってしまい、そのスキを熊本が連続ゲット、ここで勝負が決まった。

▽準々決勝

清水商（静岡）6（3―2、3―2）4 氷見高（富山）

ともに連戦で動きが鈍く、FWはとくにそれがめだった。清水が前半10分で3点をあげ、その後ばったり得点がなかったのもその現われだ。守備力の優劣がそのままスコアとなった試合。

桜台高（愛知）11（5―1、6―0）1 鹿児島工（鹿児島）

桜台の完勝だった。鹿児島は前半こそセンタースリーが果敢に攻め込んで勝敗の興味をつないだが、後半はバックスのラフプレーもあり桜台の一方的ゲームとなってし

まった。

中京商（愛知）6（1−1, 5−4）5 熊本市商（熊本）

激戦だった。中京は前半1点にとどまったがこれは軟かいグラウンドにわざわいされたものだ。熊本としてはこのスキをつくべきだったが、中京のデフェンスの動きをくずせなかった。後半も全く互角の戦況だったが、中京は19分20秒LW餅原の殊勲のシュートで辛勝した。

盛岡一高（岩手）11（5−2, 6−1）3 寝屋川高（大阪）

盛岡はバックスの堅守もあり、寝屋川を完全に自分のペースに引きずり込んで完勝、とくに後半は一方的な経過だった。寝屋川は前半12分から全くFWの動きがなくこれでは勝味はなかった。

▽準決勝

中京商（愛知）13（7−4, 6−5）9 盛岡一高（岩手）

東北勢のベスト4進出は初めてであり、盛岡の健闘はたたえられてよかった。しかし試合の展開力ではさすがに中京商は優れたモノをみせ、前半9シュートのうち7本を得点に結びつけ優位に立った。盛岡は14m投二本を落とすなど確実味に欠け、後半LW西村を中心としたがんばりも及ばず惜敗した。

【盛岡】		【中京】
木村	GK	牧
藤沢 橋本	FB	深谷祐 近藤
外川 内村 村川	HB	小島 末松 安藤
千葉 吉田 斎藤 菊地 西村	FW（主審 岡村）	深谷忠 鈴木 坂野 竹本 餅原
21	ST	20
16	反則	30

桜台高（愛知）15（4−4, 6−6, 4−2, 1−2）14 清水商（静岡）

両軍とも立ち上り堅くなり最初の5分間は無得点、その後息詰まるような試合となりそれが最後まで続くという力戦となった。互いに美技の応酬から一進一退を続け10−10で延長戦に入った。桜台はようやくその地力を発揮、RW近藤（世界選手権出場の近藤の実弟）の活躍もあり延長前半をリード。後半清水はLI飯田の連続ゲットで追ったが及ばず涙をのんだ。桜台の勝利にはGK渡辺の好守は見のがせない。清水は延長前、勝機があっただけに惜しい敗戦だった。

【桜台】		【清水】
渡辺	GK	渡辺
山口 林	FB	風間 向島
鳥居 青山 河村	HB	海野 宮城島 中村
近藤 小川 吉金 山村 小林	FW（主審 村田）	榊原 斎藤 石川 飯田 藤井
21	ST	23
35	反則	24

▽決勝

メモ帖から

岡村昭二

○会場の氷見は〃ゼロの焦点〃で脚光をあびた能登半島の東海岸、富山湾のふところにあたる。氷見を〃ひみ〃とよむ。当地は大昔から海と山のさちに恵まれていたので集落地帯ができ、奈良朝初期に渚国（なぎさのくに）の海辺に〃のろし〃が設けられた。従ってこの一帯を名づけて氷見と呼ぶようになったと土地の史家は言っている。〃のろし〃の所在地が朝日山にあったが、今大会会場の氷見高校はこの山頂にある。ここは、しん気楼の浮ぶ美しい海面を見下し、一方ははるか彼方に幽幻の立山連峰望むことができる。

○この土地でまず感心することは、町全体を通じハンドボールに大変な熱の入れ方だ。ここ数年のうちに全日本選手権、国体という二つの大きな大会を行なったが、何れも観衆がどっと押しかけさすがの広い校庭も足の踏み場もないほどであった。

○開会式でハンドボールの選手入場は、他競技に比べ実に立派だという定評がある。今大会は海上自衛隊のブラスバンド行進と小・中学生による鼓笛隊行進がありそれがいっそう開会式にはなやかさをそえた。

○高松宮妃殿下のお言葉のさい、ひしめく観衆も一瞬水を打ったような静けさになった。はっきりと透ったお言葉であったが並いる人の胸に熱いものを感じた○大会運営は一糸乱れないほど組織的で計画的で、しかも協力的で感心した。一言に言えばこれは指導者がよいからだと思う。黙々として働く縁の下の力もちが何人もいなくてはこれだけの成果は望めない。数年前の全日本大会のときをふと思い出す。大会二日目だったと思うが大変な豪雨に見舞われた。夜が明けるころには幸い雨は小雨になったが、グラウンドは水田のようになってしまった。おまけにグラウンドは排水が悪い。しかしゲームができないといって大会を延期するわけにはいかない。そこで早朝氷見高校の選手も役員も学校の清掃用バケツと農具を動員して排水作業と砂運びにかかった。作業はたっぷり数時間かかった。シャツもパンツも泥沼で泳いだようになっていたが、しかしだれ一人として不平をいう者はなかった。おかげで予定通りゲームができるほどになったが、作業を行なった氷見高校は当日のゲームでも大いに奮闘したことをいまも忘れることはできない。

○技術について感じたことは、男女共技術の程度が非常に接近したことだ。ことに女子の技術が相当高くなった。ただ男子のチームのコンビについてはまだまだ研究の余地がある。それにはお互いの献身的な心の結集が必要であるけれども、基礎の技術も忘れてはならない。

○ゲーム・マナーについては苦言をいわざるをえない。「故意」「又は故意と思われる動作」の反則をしばしば見うけた。しかも相当高いレベルのチームによく行なわれていた。このことはスポーツマンとして、高校代表選手として恥ずかしいことであり残念なことであった。行なうプレヤーもよくないが、指導者の責任でもある。〃ハンドボールを通じて人間形成を希求する〃という崇高な立場からはこの行為はその逆行であると識者は断言するであろう。指導者も選手も〃勝つことのみに〃こだわらないことが大切だ。

中京商（愛知）13（5—6、8—6）12 桜台高（愛知）

前年度決勝を争った両チームが奇しくも再び対決。開始後2分桜台はCF吉金がジャンプシュートを決め先行した。中京もすぐLW餅原がゲット、以後それぞれ14m投を含めて基礎技術の上に立って洗練されたハンドリング、パスフェイントを使いこなして好試合を演じた。20分桜台は6—3とリードしたが、中京は懸命に追い込み6—5で前半を終了。後半にはいるや桜台は再び脚力を生かしたあざやかな速攻で得点を重ね10分には11—7と4点差となった。しかし中京も13分から19分までに驚異的な反撃をみせ11—11とタイに持ち込んだ。このあと桜台はRI小川の得点でリードしたが、粘る中京は21分LW餅原が同点のシュート。そしてタイムアップ寸前、RW深谷忠が中京商三連勝を決める劇的な殊勲のシュートを放ち、GK右上を鋭くついて、逆転劇が演じられた。

点	【中京】		【桜台】	点
0	牧	GK	渡辺	0
0	深谷祐	FB	山口	0
0	近藤	FB	林	0
0	小島	HB	鳥居	0
0	末松	HB	青山	0
0	安藤	HB	河村	0
4	深谷忠	FW	近藤	3
1	鈴木	FW	小川	4
1	坂野	FW	吉金	4
0	竹本	FW	山村	1
7	餅原	FW	小林	0
	18	ST	26	
	28	反則	24	

女子

前年度優勝校熊本市高（熊本）など35校が参加

▽一回戦

湧谷高（宮城）6（2—2、4—3）5 平塚江南（神奈川）

四日市高（三重）9（7—4、2—4）8 高知西高（高知）

花巻南高（岩手）6（5—1、1—1）2 添上高（奈良）

▽二回戦

新居浜東（愛媛）13（9—4、4—2）6 井原高（岡山）

福島女高（福島）7（3—0、4—1）1 高志高（福井）

栃木女高（栃木）8（4—2、4—2）4 富山女高（富山）

大垣南高（岐阜）10（4—1、6—0）1 北佐久農（長野）

菊地農蚕（熊本）8（4—2、4—1）3 室蘭清水（北海道）

京都女高（京都）11（6—3、5—5）8 羽咋高（石川）

熊本市高（熊本）9（5—1、4—0）1 湧谷高（宮城）

高崎女高（群馬）9（7—4、2—1）5 和洋女高（秋田）

水海道二高（茨城）7（2—1、5—2）3 豊中高（大阪）

山陽女高（広島）5（3—2、2—1）3 山梨高（山梨）

尼崎高（兵庫）8（4—1、4—1）2 桜水商（東京）

半田高（愛知）16（10—3、6—2）4 花巻南高（岩手）

明善高（福岡）19（9—4、10—2）6 四日市高（三重）

静岡城北高（静岡）6（6—1、0—4）5 徳山高（山口）

有磯高（富山）12（5—0、7—3）3 彦根西高（滋賀）

熊谷女高（埼玉）9（5—2、4—1）3 那賀高（和歌山）

○…当然のことながら得点力に優れたチームが勝ち進んだ。僅少差を守り切るいわゆる守勢のチームが多かった高校女子界では、迫力という面で物足らぬものが感じられていた。今大会ではそうした傾向がなく活潑な攻め合いが多くなったのは喜んでよいことだろう。

▽三回戦

栃木女高（栃木）4（2—1、2—2）3 新居浜東（愛媛）

菊地農蚕（熊本）4（2—1、2—2）3 高崎女高（群馬）

静岡城北高（静岡）8（5—0、3—1）1 熊谷女高（埼玉）

熊本市高（熊本）12（6—2、6—0）2 福島女高（福島）

京都女高（京都）9（6—3、3—2）5 大垣南高（岐阜）

水海道二高（茨城）5（2—0、3—1）1 有磯高（富山）

尼崎高（兵庫）5（3—4、2—0）4 明善高（福岡）

半田高（愛知）6（2—0、4—2）2 山陽女高（広島）

○…ベスト8の顔ぶれは順当だった。尼崎×明善はどちらも八傑に残れるだけの実力校だったが、明善は後半9本のシュートが全部はずれてしまい、逆に尼崎は後半ゴール前でオープン気味の攻撃をみせたのが図に当たり9分、10分と連続ゲットして逆転しそのまま逃げ切った。菊地×高崎は菊地の攻撃力に一日の長があり、菊地の一応順当勝ち。菊地には強引なシュートが多く、じっくり攻めれば苦戦をせずにすんだハズだ。栃木と熱戦を演じた新居浜東の健斗は敢斗賞モノだった。

▽準々決勝

栃木女高（栃木）4（1—3、3—1、0—0 抽選）4 菊地農蚕（熊本）

菊地はLW立山のキープ力を生かして徹底した速攻をみせて試合を運んだ。しかし後半栃木は4—2の劣勢から捨身の速攻でゴールを襲い、この積極さが実を結んで後半7分タイ・スコアにこぎつけ、その後も優勢だったが無得点に終った。結局抽選で栃木が勝ったが、菊地の活躍は激賞に価する。

半田高（愛知）7（3—3、4—2）5 静岡城北高（静岡）

見応えのある試合だった。攻守とも実力伯仲で前半は文字通りの一進一退。後半6—6から勝負どころの中盤5分間に半田が2点を入れ勝進んだ。城北は後半ややカットインに切れを欠いたのがいけなかった。

京都女高（京都）6（2—2、2—2、1—1、1—1 抽選）6 熊本市高（熊本）

熊本は泣くに泣けぬ敗戦だった。チーム力は熊本が一枚上だったが、京都はGK大久保がよく動き熊本の猛攻に耐えたのがよかった。京都は二回の延長とも先手をとられたが、二度ともHB岸田が殊勲のシュートを放って幸運をよんだ。四連勝を狙った熊本のスケールの大きい攻撃は印象的だった。

水海道二高（茨城）4（3—1、1—1）2 尼崎高（兵庫）

水海道はうま味のあるチームプレーで前半を優勢に戦い、後半ややや疲れがみえたがそのまま押し切った。尼崎は慎重なあまり攻めが消極的で善戦の城にとどまった。

▽準決勝

全国高校、来年は小倉で

全国高体連ハンドボール部定例委員会では、昭和三十七年度（第十三回）全国高校ハンドボール選手権大会を小倉市（福岡県）で開催することに決定した。

また、第十四回大会は山梨市（山梨県）に内定した。

中京商基礎の確かさ示す

女子、身につけよスピード攻法

後記 男女とも福井と山形が初参加し、昨年よりチームが増えた。これで千葉と新潟が復活すれば全国都道府県でこの大会に参加していない県は七県だけとなる。

ハンドボール人口の底辺の拡大を物語るこれ以上のモノはなかろう。

さて男子は中京商（推薦、愛知）対桜台高（愛知）と昨年同様の決勝となり、この大会三度目の愛知県同士の対決となった。ことしは桜台だろうという予想を裏切って中京商劇的な逆転に成功して3連勝。桜台の持つ通算六回にあと三回、五連勝にあと二つと迫った。中京商の優勝はその確実な基礎体力と基礎技術に最大因があった。これはともすれば理論に走る昨今の高校界にとって注目、そして反省すべきことであった。そして、そのうえに日ごろの練習によって培はれた気力が他校をしのいでいたのだから、その優勝もむしろ順当であろう。準優勝の桜台は昨秋以来中京との対戦ではほとんど勝っていないながら、檜舞台で一敗地にまみれたのは惜しまれる。その力において中京をしのぐといはれた桜台の敗戦も、僅かな気力の差が明暗を色分けたのではなかろうか。このほか相変らず闘志鋭いところをみせた清水商（静岡）、それに名門桐生工（群馬）、新鋭熊本市商（熊本）らが水準の高い攻守を示していた。また函館工（北海道）、盛岡一高（岩手）、塩山高（山梨）らの常連校はことしはとくに充実の布陣で好調を示し、なかでも盛岡一高の活躍は特筆されてよかろう。早期敗退とはいえ兵庫工（兵庫）、鎌倉学園（神奈川）らはA級の実力。九年ぶりの墨田川高（東京）九年連続の大宮高（埼玉）、十年連続の新居浜工（愛媛）などの登場も話題であった。地元氷見（富山）の活躍も大会の雰囲気を盛り上げるに十分で実力の伯仲した好ゲームが多かった。しかしこともラフ・プレー、とくにバックスの粗暴なファールがめだっていたのは残念であり、これは指導者の責任も大きい。

一方、女子は半田高（愛知）が宿願の初優勝を飾り、第四回大会の桜台（男）、稲沢（女）に次いで愛知県は二度目の両タイトル獲得の偉業をとげた。3連勝を狙う熊本市高（推薦・熊本）が敗れたため、準決勝、決勝は楽勝、半田独走の印象を受けたが、しかし熊本市高、静岡城北高（静岡）などの実力は紙一重であった。とくに熊本は偉業寸前だけに気力の充実した好チームだったが、伏兵京都女高（京都）に抽選のすえ敗れたのはかえすがえすも惜しまれる。昨秋の国体の半田×熊本の激闘の再戦を実現出来なかったのは残念だった。それだけに京都女高の健闘が光るワケだが、栃木女高（栃木）、水海道二高（茨城）らの名門チームがめだった。しかしこの両チームとも対半田戦はあまりにもお粗末で期待を裏切った。新進の菊地農蚕（熊本）は力強いプレーを見せ将来を楽しませたが、逆に名門明善（福岡）や涌谷（宮城）は往時ほどの精彩を欠いていたようだ。一般に女子はスピード感が欠けており、特に遅攻を常用するチームが増えて来たような傾向はいただけない。国際試合の確報もある女子界の後続がこのようなことでは心細い。スピード攻法を一日も早く、一つでも多くのチームが身につけて欲しい。

なおこの大会に同一校から男女両チームを送ったのは北佐久農（長野）と添上高（奈良）の二つだが、十一人制と七人制という内容（技術・戦法）の全く違う両者をともに育てあげてゆく指導者の労苦をこの場で心からねぎらっておきたい。（S）

水海道二高（茨城）13（6—2 7—2）4 京都女子高（京都）

【京都】		【水二】
大久保	GK	鈴木昌
藤戸、稲本	B	渡辺、横倉、川田
岸田、川崎、吉川、永盛	FW	田村、滝川、笠原
丹羽、奥田、八木、丸山	交代	後の上、香山、鈴木き、木村
18	ST	27
30	反則	21

水海道の順当勝ち。京都は試合運びではなかなか優れたものを持っていたが、シューター吉川、永盛に片寄りすぎていたため巧者水海道のデフェンスにつけ込まれ攻撃を封じられた。逆に水海道はGKを除くスターティングメンバーが全員得点を記録するという対照をみせ楽勝した。水海道は三年ぶりの決勝進出。

半田高（愛知）9（5—0 4—0）0 栃木女高（栃木）

栃木の零敗は意外だった。これは半田のデフェンスのよさもあったが、連続して三本のノーマークシュートをラインクロスしてFWが自信を欠いてしまったのも見のがせない。

【半田】		【栃木】
水野	GK	柿沼
伊藤、村松、森ノ内	B	小林、斎藤、戸沢
小島、木青、早川	FW	鈴木孝、鈴木雅
加藤寿、鶴田、加藤恵、河合	交代	板倉、角田、穂坂
27	ST	19
18	反則	25

一方の半田も立ち上がりは鋭さを欠いたが、8分LW早川が先制点をあげてからペースを取りもどし、最後は栃木の不調もあって一方的な結果になった。

▽決勝

半田高（愛知）12（5—2 7—1）3 水海道二高（茨城）

半田の決勝進出は昨年に続き二度目。しかも、今年は男子が戦わずして愛知勢の優勝と決まっているだけに、両部門優勝を狙う半田の意気ごみは格別で、慎重なうちにも果敢な攻めっぷりだった。これに対して水海道は得意の出足を欠き、攻撃も凡ミスが多く、半田が自然優勢となって決勝戦には寂しい内容の試合となった。

【半田】		【水二】
水野	GK	鈴木昌
伊藤、村松、森ノ内	B	渡辺、横倉、川田
小島、青木、早川	FW	田村、滝川、笠原
加藤寿、鶴田、加藤恵、河合	交代	後の上、香山、鈴木き、木村
19	ST	7
26	反則	18

半田はこの大会切っての好守備陣を持ち、水海道に7本のシュートしか許さなかったのはみごとだった。半田は昨秋の国体に続き、全国二大会に連勝したことになる。

地方だより

中京、半田敗れる
東海選手権

第13回東海選手権大会は九月九、十の両日、三重県四日市市で東海四県、四部門二十三チームが参加して行なわれた。高校男子は全国大会3連勝の中京商（愛知）が宿敵桜台（愛知）に1点差で敗れ、高校女子も全国優勝の半田高（愛知）が静岡城北高（静岡）に敗れる番狂わせがあった。なお高校女子では名門稲沢の復調がめだった。

▽高校男子準決勝
中京商(愛知)8—3清水商(静岡)
桜台高(愛知)13—5御殿場(静岡)
▽三位決定戦
清水商 12（6—4 6—3）7 御殿場高
▽決勝
桜台高 5（4—1 1—3）4 中京商
桜台高の優勝は二年連続6回目

▽高校女子準決勝
城北高(静岡)7—6半田高(愛知)
稲沢高(愛知)9—5清水女(静岡)
▽三位決定戦
半田高 14（6—8 8—0）8 清水女高
▽決勝
静岡城北高 7（3—1 4—5）6 稲沢高
静岡城北高の優勝は2回目

▽一般男子準決勝
桜丘会(愛知) 16（10—5 6—4）9 鵜ノ森ク(三重)
清商ク(静岡) 13（8—3 5—4）7 かがり火ク(岐阜)
▽決勝
桜丘会 12（6—5 6—6）11 清商ク
▽三位決定戦
鵜ノ森ク 18—13 かがり火ク
▽一般女子（リーグ）
愛知紡績(愛知) 17（5—1 12—3）4 大垣商ク(岐阜)
愛知紡績 14（7—1 7—2）3 城北ク(静岡)
城北クラブ、大垣商クラブは愛知紡績の2勝で優勝が決まったため両者二位となった。

熱意示す高山市

昭和四十年（第二十回）岐阜国体のハンドボール競技開催地に決まった高山市はこれまでハンドボールの正式なチームがなく、公式試合も開かれなかった。開催地に決まってからは市体協が中心となって、PRをはじめ、九月十日に行なわれた市民体育祭で、市内の日枝中と中山中の間で公開試合が行われるなど、活潑な動きを示している。国体や全日本の開催でハンドボールへの関心と普及が急速に高まった例は多く、最近では氷見市（富山）や水俣市（熊本）などがその好例、高山市の熱の入れようも早くもこれらに劣らぬものがある。

大崎、日体大に栄冠
関東選手権兼国体予選

第八回関東ハンドボール選手権兼第十六回国体関東地区予選会は九月九、十日横浜市蒔田公園、蒔田中学校グラウンドにて行なわれた。男子は大崎電気が、女子は日体大が優勝した。また国体関東地区代表には一般男子、大崎電気（東京）、全神奈川（神奈川）、全埼玉（埼玉）、桐生クラブ（群馬）の四チーム、一般女子は日体大、高校男子は墨田川高（東京）桐生工高（群馬）、高校女子は水海道二高（茨城）がそれぞれ晴れの代表に決定した。

▽一般男子 一回戦
大崎電気 12—9 全埼玉
全茨城 14—9 全山梨
全神奈川 14—12 桐生ク
足利球友会 19—12 千葉ク
▽敗者復活戦
全埼玉 13—10 全山梨
桐生ク 18—9 千葉ク
▽二回戦
大崎電気 22—5 全茨城
全神奈川 15—12 足利球友会
▽敗者復活戦
桐生ク 17—9 全茨城
全埼玉 12—9 足利球友会
▽決勝
大崎電気 19（11—2 8—4）6 全神奈川

▽一般女子 一回戦
栃木女高OG 7—5 高崎市女高OG
全茨城 8—5 全埼玉
日本体育大 14—3 山梨クラブ
▽二回戦
栃木女高OG 8（5—1 3—3）4 全神奈川
日本体育大 9（2—3 7—2）5 全茨城
▽決勝
日本体育大 20（11—2 9—3）5 栃木女高OG

▽高校男子 一回戦
墨田川高 21—7 佐原高
日川高 17—8 石橋高
石岡一高 5—4 鎌倉学園
桐生工高 14—9 浦和市立高
▽二回戦
墨田川高 14（7—3 7—1）4 日川高
桐生工高 12（6—4 6—3）7 石岡一高

▽高校女子 一回戦
山梨高校 7—5 高崎高校
水海道二高 10—8 桜水商高
平塚江南高 11—4 佐原女高
栃木女高 10—4 熊谷女高
▽二回戦
水海道二高 9（4—3 5—4）7 山梨高校
栃木女高 15（6—1 9—4）5 平塚江南高
▽決勝
水海道二高 8（2—4 6—3）7 栃木女高

甲南大が優勝

第八回近畿地区大学体育大会ハンドボール競技は九月六、七の二日間、大阪学芸大池田グランドで行なわれた。今秋から一部昇格の新進桃山学院大が健闘して注目をあびたが、決勝は甲南大が守備陣の活躍で優勝した。

▽決勝
甲南大 11—7 桃山学院大

中国高校は男女とも山口

中国地区高校ハンドボール大会（兼国体予選）は九月四日、広島修道高グランドで広島、岡山、山口三県の代表校によってリーグ戦が行なわれた。男子では幡生工（山口）、女子では徳山高（山口）がそれぞれ優勝した。

▽男子リーグ
津山商(岡山)6—5修道高(広島)
幡生工(山口)10—9修道高(広島)
幡生工(山口)6—4津山商(岡山)
(順位)①幡生工②津山商③修道高
▽女子リーグ
徳山高(山口)10—4山陽女(広島)
井原高(岡山)7—5山陽女(広島)
徳山高(山口)8—3井原高(岡山)
(順位)①徳山高②井原高③山陽女

男子墨田川 女子水海道二高
関東高校選手権

第七回関東高校選手権大会は、七月二十三日から四日間、茨城県笠間市で行なわれた。関東一都七県の予選を勝抜いた男子三十三、

女子三十一校が参加、全国高校選手権の各県代表もほとんど顔をそろえたので内容のある試合が続いたが、男子は墨田川高（東京）、女子は水海道二高（茨城）が優勝した。

▽男子準々決勝

塩山高（山梨）11－3 佐原高（千葉）

麻生高（茨城）11－5 土浦工（茨城）

桐生工（群馬）11－10 日川高（山梨）

墨田川（東京）14－2 前橋商（群馬）

▽準決勝

桐生工 11（6－4 5－6）10 塩山高

墨田川高 11（7－4 4－3）7 麻生高

▽三位決定戦

塩山高 12－9 麻生高

▽決勝

墨田川高 12（6－6 6－5）11 桐生工

墨田川高は初優勝

▽女子準々決勝

栃木女（栃木）10－2 菊華高（東京）

山梨高（山梨）9－4 水戸二（茨城）

太田二（茨城）6－4 足利女（栃木）

水海二（茨城）8－1 高崎市（群馬）

▽準決勝

栃木女高 6（2－1 4－0）1 山梨高

水海道二高 8（4－1 4－2）3 太田二高

▽三位決定戦

山梨高 12－10 太田二高

▽決勝戦

水海道二高 10（5－2 5－2）4 栃木女高

水海道二高は三度目の優勝

四日市市、員弁を降す
三重県郡市対抗

三重県郡市対抗ハンドボール競技大会は、八月六、七の両日松阪市第四小学校グランドで六チームが参加して行なわれたが四日市市が攻守に安定した強味をみせて優勝した。

▽準決勝

四日市市 20－5 三重郡

員弁郡 19－6 津市

▽決勝

四日市市 25－19 員弁郡

福岡クラブ初優勝
山口、長崎など四県大会

第一回山口、福岡、熊本、長崎四県対抗ハンドボール大会は、六月十一日、長崎県佐世保市の佐世保市立体育館で室内制（男子のみ）によって行なわれた。その結果、福岡、山口、熊本が2勝1敗の同成績となったが、得点の多い福岡クラブ（福岡）が初優勝した。

熊本教員ク（熊本）21（10－2 11－4）6 佐世保ク（長崎）

山口ク（山口）10（1－4 9－4）8 福岡ク（福岡）

福岡ク 22（8－1 14－5）6 佐世保ク

熊本教員ク 13（8－3 5－4）7 山口ク

福岡ク 13（5－1 8－4）5 熊本教員ク

山口ク 19（8－4 11－2）6 佐世保ク

（順位）①福岡クラブ2勝1敗（得点43）②熊本教員クラブ2勝1敗（39）③山口クラブ2勝1敗（36）④佐世保クラブ3戦3敗（18）

○……意欲的な活動を続けている九州球界があらたに開いた大会だが、勝率を分け合った上位三チームが攻守に洗練されたプレーをみせたため好試合が続いた。普及途上の長崎県でとくに第一回大会を開いた意義がかなえられた。四チームともメンバーの編成は教職員が圧倒的に多くここから生まれる九州、中国勢の最近の活況が十分うかがえた。

話題のチーム⑦ レナウン工業の巻

○…日本の女子ハンドボールを語るとなるとまず愛知紡績。その愛知紡績にいつまでも女王の座を預けっぱなしではならないと、今年は三つの有力チームが名乗りをあげた。

すでに御承知の太洋デパート（熊本）、大崎電気（東京）、レナウン工業（東京）がそれ。



（写真はレナウン工業チーム）

○…そのトリオの中でレナウン工業は実のところ戦力は一番落ちる。ちょっとスタートで出遅れたため、差がついてしまったというのが真相だが会社もチームの連中もいっこう気にしていない。なあに来シーズンをみておれというところなのだろうがどうしてことしのメンバーも侮れない顔ぶれである。

○…主将でGKの山田嬢は日体大で鳴らした巧者。昨年の全日本総合で準優勝したときのGKぶりをご記憶の読者もあるハズ。新チームの要としてはうってつけのキャリアの持ち主だし、FWの穴田嬢は富山女高のLWとして昨年の国体に出場している。それに桐原、関、椎名の三嬢は茨城の名門太田二高。剣持、小泉の両嬢は清水商の出身。そして日立女高出の和田嬢がCFとして活躍、控えの選手層に不安を感じる以外は堂々たる布陣である。

○…それに監督の塩川安賢君はついこの間まで最強芝浦工大のFWとして活躍した若手のパリパリ。新生チームにふさわしいスタッフである。全日本総合に初出場したこのチームへの批評は「小粒な感じ」だった。

しかし塩川監督の抱負は「ことしは一年生、ゆっくり研究して、来年はなんとしても優勝戦線に顔を出す」と小粒どころか大きい。大きい。

投書欄

全日本に予選制度を

ことし、倉敷で行なわれた全日本選手権のスコアを見ると、一、二回戦は非常に一方的な試合が多い。

全日本の二回戦で30点も差が開いてしまったり、ダブルスコアがその大半を占めるというのは、あまりいただける話ではない。

それというのも、大会参加がオープン制度であるからだと思う。大会の創設のころは、普及という意味で、これは確かに当を得た策だったのであるが。現在のようにチームも増えて、なおそのままの制度を続けていることは納得できない。

大会参加数が増えればよいというものではないだけに一考が望まれよう。

そこで、考えられるのは予選制度である。参加チームの内容を厳選することは、それだけ大会の権威と内容を高めるものであり、強いては球界の発展につながろう。

とくに男子部門では次の大会からでもその実現を切望するものである。大会参加のワクは前大会の上位四チームを推薦とし、その他は十六チーム、合計二十チームが妥当な数ではなかろうか。うち訳けは全日本学生の上位四校、その他は、全国をいくつかのブロックに分け、予選で十一チームを選び、開催県（地元）から一チーム出場にすればよいと思う。

そうなると各地区では現役の学生チームを交えて、相当激しい予選が展開されるだろうし、本大会は当然レベルの高い試合が続くことになる。地方のクラブ、チームにとっては全日本への道を閉ざされ、中央のレベルに接する機会を失うことになるかもしれない。地方選手権や県大会の数を増やし、まず地方の水準向上を心がけるのが先決のように私は感じる。

女子はチームが増えたといっても、まだこの大会で20を越した経験がないのだから当分現行維持でよい。

（東京・小原晋）

質問欄

問 今年の全日本高校優勝校（中京商と半田高）の各試合のシュート数と反則数をお知らせ下さい。（兵庫・GT生）

答 Sはシュートを表はします。

【中京商】

相手	S	得	反
桐生工	34	20	25
修道高	15	11	16
熊本商	16	6	37
盛岡一	20	13	30
桜台高	18	13	28

【半田高】

相手	S	得	反
花巻南	30	16	32
山陽女	22	6	11
城北高	22	7	12
栃木女	27	9	18
水海二	19	12	26

問 ハンドボールでナイトゲームが行なわれたことがありますか。また最初の試合は？（京都・一高校生）

答 関西では西宮球場、関東では国立競技場の施設を使っています。しかし現在では早慶定期戦が毎年恒例としているほかはとくに行なわれてはいないようです。

最初のナイト・ゲームははっきりした記録がありませんが、昭和二十八年に西宮での第八回関学対早大定期戦ではないかと思います。これまでに行なわれた主なナイトゲームはこのほか全関西対全九州対抗（西宮）などがあります。

問 国体におけるハンドボール競技の順位決定方法につきお知らせください。（静岡・工藤　誠）

答 国体のハンドボール競技は四部門（一般男女、高校男女）に分けて行なわれます。各部門別の1位県に10点、以下2位7点、3位6点、4位5点、5位から8位各2・5点を与え、四部門の合計点で順位を決めます。5位から8位までとは準々決勝の敗者四チームに各2・5点が与えられます。

質問かんげい

ハンドボールに関することなら技術問題、記録なんでも結構です。宛て先は住所、氏名(匿名可)、年令明記のうえ、ハガキで東京都千代田・神田駿河台、日本ハンドボール協会内機関誌編集部質疑応答係まで。

編集後記

▽…ことしの球界はいろいろなことがあり多忙だった。初の海外遠征、東京オリンピックさく減問題、女子社会人チームの誕生などである。こんなに活発な動きがあったのは球史始まっていらいのこと、いそがしいなかにもうれしい話である。

▽…本誌も第7号を迎えようやく軌道に乗ったのも、全国のハンドボール・ファンの応援によるものと感謝しています。より良いものにするために、いっそうの声援をお願いします。

▽…本号から『ヨーロッパ遠征から学んだもの』を連載することにし、高嶋、荒川両兄に執筆していただきました。諸兄諸姉のご参考になれば幸いです。それに女子社会人チームの誕生に努力していただいた諸兄のプロフイルの続き物をとりあげました。女子チームは年々増加の一途、わたしたちは心からその発展を祈って止みません。全国の女子高校生の方は大いにハンドボールに力を入れ、卒業後は社会人チームに飛び込んでもらいたい。

▽…十月下旬に日体大が韓国に遠征し、来年二月にはユーゴ女子チームが来日の予定です。オリンピック種目からさく減されたとはいえ、これからの球界はいろいろな話題があります。ハンドボールが一本立ち出来たのもハンドボール愛好者の努力の結果です。感謝します。（ふぐ）

日本ハンドボール協会編
ハンドボール
第七号
昭和三十[illegible]十月五日印刷　発行所　東京都千代田区神[illegible]河台四ノ六
昭和三十[illegible]十月十日発行　日本ハンドボール協会　電話（251）九五[illegible]五　振替東京五八三四八番
編集兼発行人　的場益雄
定価五十円（〒）二十円